

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

平成 24 年度～平成 28 年度「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究成果報告書概要

1 学校法人名 金沢医科大学 2 大学名 金沢医科大学

3 研究組織名 金沢医科大学 医学部

4 プロジェクト所在地 石川県河北郡内灘町大学 1 丁目 1 番地

5 研究プロジェクト名 高齢化の進む過疎地域におけるライフ・イノベーション創出

研究テーマ(1) へき地高齢化社会における心の健康医療システム構築に関する研究
(臨床研究)

研究テーマ(2) 発生工学的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発
(基礎研究)

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
川崎 康弘	精神神経科学・教授	教授

8 プロジェクト参加研究者数 50 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 人文・社会

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
川崎 康弘	精神神経科学・教授	へき地高齢化社会における認知症とうつ病医療システム構築	へき地の高齢者における認知症とうつ病の治療システムや予防法の確立
神田 享勉	地域医療学・教授	へき地高齢化社会におけるストレス関連身体疾患に関する研究	へき地の高齢者におけるストレス関連疾患の治療システムや予防法の確立
森本 茂人	高齢医学・教授	へき地高齢化社会における心の健康推進活動に関する研究	へき地の高齢者における心の健康の知識普及に関する活動
三輪 高喜	耳鼻咽喉科学・教授	嗅覚機能検査による認知症とうつ病診断に関する研究	嗅覚機能評価を認知症とうつ病の発症前診断に応用する研究
北村 修	法医学・教授	へき地社会における心の危機状態に関する研究	へき地における心の危機的状态に関する調査の計画・実行・評価
石崎 昌夫	衛生学・教授	へき地高齢化社会における高齢者の心の健康調査に関する研究	へき地における高齢者の心の健康個別調査の計画・実行・評価

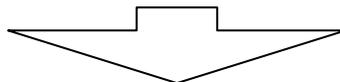
法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

岩淵 邦芳	生化学 I・教授	うつ病モデルマウスにおいて疾患発症に神経細胞のDNA損傷が関与するか	モデルマウスでの神経細胞死におけるDNA損傷の意義の解明
加藤 伸郎	生理学 I・教授	うつ病増悪因子としての認知障害の検討	アルツハイマー病モデルマウスへのうつ導入効果の解析
八田 稔久	解剖学 I・教授	発生工学的手法を用いた精神疾患素因を有するモデル動物の作製	形態学的特徴の鮮明なモデル動物群の確立と解析
米倉 秀人	生化学 II・教授	精神疾患モデル動物における血管関連因子およびRAGEの関与の解明	精神疾患モデル動物における血管関連因子・RAGEの役割の解明
村木 靖	微生物学・特任教授	うつ病や認知症の増悪因子としてのインフルエンザウイルス感染の解析	インフルエンザウイルス感染マウスに発現したウイルス蛋白および宿主蛋白の解析
石垣 靖人	総合医学研究所・教授	網羅的遺伝子解析手法による疾患マーカー探索	モデルマウスでの遺伝子発現量を網羅的な解析手法で検索する
(共同研究機関等)			

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
うつ病や認知症の増悪因子としてのインフルエンザウイルス感染の解析	金沢医科大学・医学部・微生物学・特任教授	村木 靖	インフルエンザウイルス感染マウスに発現したウイルス蛋白および宿主蛋白の解析

(変更の時期:平成 27 年 3 月 31日)



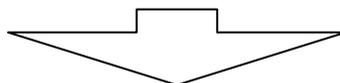
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
金沢医科大学・一般教育機構・生物学・准教授	金沢医科大学・一般教育機構・生物学・教授	東海林 博樹	母体へのインフルエンザウイルス感染後の胎児での遺伝子発現の解析

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
へき地社会における心の危機状態に関する研究	金沢医科大学・医学部・法医学・教授	北村 修	へき地における心の危機的状态に関する調査の計画・実行・評価

(変更の時期:平成27年 3月31日)



法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

11 研究の概要(※ 項目全体を10枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

平成23年7月に厚生労働省は地域医療の基本方針となる医療計画として5大疾患(がん、脳卒中、心臓病、糖尿病、精神疾患)と5事業(救急、災害、へき地、周産期、小児)を指定した。精神疾患が追加された理由として、323万人という患者数が糖尿病の237万人を大きく上回り、がんの152万人の2倍にのぼること、年間3万人を超える自殺者の9割は精神疾患に罹患していた可能性が指摘されていること、高齢化に伴う認知症と社会状況の深刻化によるうつ病の患者数増加が今後もつづくことが予想され、国民に広く関わる疾患として重点的な対策が必要と判断されたことがあげられる。特に問題とされているのは60歳以上の高齢者に自殺者が多いことである。日本の高齢者の自殺率は諸外国と比較しても高く、さらに女性の比率が他の年代よりも高いこと、若年者に比べて既遂(すでに、なし終えていること)となる割合が非常に高いこと、都市部に比べて農村部で高いことなどがわかっている。高齢者の自殺の背景には、健康問題という持続的な身体苦痛、対人交流や生活環境の不良、診療を避ける傾向などが認知症やうつ病の発症リスクとなり、発見の遅れが重篤化や不幸な転帰につながっているという事実がある。研究チームの森本・神田らは、過疎地高齢者の生活機能低下の発現にうつ状態の存在が大きく関与していることを明らかにしている。

認知症の初期段階にはうつ病と区別しがたいアパシーと呼ばれる活動性低下がみられることが多い。うつ病では興味・意欲減退による活動性低下が仮性認知症と呼ばれ、高齢者ではうつ病とアパシーの鑑別が困難であり、また二つの病態が混在する場合もしばしば生じる。認知症とうつ病では治療や介入法が根本的に異なるため、早期の正確な診断と状態評価が医療や福祉による適切な介入のために不可欠である。本プロジェクトの臨床研究では、認知症とうつ病という二つの病態の交互作用と、疾病自体の問題と患者に生じる心理・社会的問題の相互作用について過疎地高齢者における実態を調査・把握し、それに基づいて個々の病態に応じた革新的な予防・治療法を開発することを試みる。また基礎研究においては、うつ病、認知症モデルマウスに対する革新的な治療法を開発を進めてきた加藤、発生工学的手法による胎生期での遺伝子欠損法を用いて、知と心の疾患スペクトラムの種々の側面を示す疾患モデル動物群の作製法を開発を進めてきた米倉と八田、さらにこれらの疾患に共通する最も重要な細胞生理学的イベントである細胞死を制御するメカニズムの解析を進めてきた岩淵が連携することで、知と心の疾患の発症メカニズムに迫るとともに、その治療法の開発を目指す。

本プロジェクトでは、厚生労働省の医療政策である精神疾患とへき地医療福祉に力点を置いた臨床研究を組織する。すなわち、①認知症とうつ病という患者数が多く死亡率も高い疾患を対象とし、病態解明のために基礎医学で見いだされた知見を臨床医学において確認することで知識を統合する。②得られた知見をもとに、妥当性や再現性のある対象の特定(診断)法を開発する。それらは簡便なスクリーニングから、高度な臨床診断技術までが含まれる。③診断された対象の病態に応じ、実行可能で患者・家族、および医療・福祉・行政等の各分野で利用でき、効果に満足できるような介入(予防・治療)法を開発する。そのほか、プロジェクトを通じて得られる成果として、研究のボランティア参加者として本学学生を積極的に勧誘しフィールドワーク体験を通じて人間性豊かな良医の育成に寄与できる。また、研究内容には心の健康の啓発普及活動として地域広報活動が含まれることから、啓発・広報活動を通じて本学の理念を広く知らしめることができる。

臨床研究では、能登地域における高齢者の認知症とうつ病の実態把握と包括的な介入・診療・研究拠点の形成を目指す。すなわち①住民を対象とした心の健康の啓発普及活動、②現地での個別訪問調査による実態把握、③問題解決のための地域連携構築の3段階の活動を軸に、これらの活動に用いられる妥当性や再現性の高い認知症やうつ病の病態診断や評価法を開発し、その有用性を検証する。開発の段階では基礎研究で見いだ

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

された知見の確認や応用も積極的におこなう。

基礎研究では、胎生期のマウス脳に様々な遺伝子に対する shRNA を発現させ、遺伝子発現欠損の状態で作られてきたマウスの成熟期での行動を解析することにより、認知症単発モデル、うつ病単発モデルまたは併発モデルマウスの作製を目指す。さらにこれらのマウスを用いて、神経系の発達障害、とりわけ海馬における神経細胞死に、血管関連因子の発現異常、DNA 損傷とその修復因子の発現異常が関与していないかを調べるとともに、発現欠損遺伝子のレスキューにより疾患発症の抑制を試みる。精神神経疾患素因に関する「胎児起源仮説」によれば、ストレス障害・気分障害は中枢神経系(特に海馬)の発達期にその潜在的基底が構成される。すなわち、ストレス耐性が脆弱な脳が発達期に形成されると、成熟期に至って他の人がコーピング(克服)可能なストレスであっても耐えられずストレス障害として顕在化し、やがてそれがうつ病など他の病像へと進展していく。この仮説を、動物実験を用いて検証する。特に、八田らが同定した、母胎間 LIF-ACTH-LIF シグナルリレーを軸とする胎児大脳皮質形成誘導機構と、母胎免疫亢進による母胎間シグナルリレーの破綻のモデルを用いて検討を行う。また、神経由来細胞株を用いて、インフルエンザウイルス感染モデルを確立し、主要抗原に対する免疫系のレスポンスについて解析を行う。また、神経と血管の相互作用に着目して神経と血管の形成と機能における神経-血管相互作用の役割を明らかにするとともに、ストレス負荷時やうつ状態のモデルマウスでの脳での遺伝子発現の変動を解析し、うつや認知症にいたる過程に関与する遺伝子を同定・解析する。

過疎地高齢者における心の疾患については、認知症の進行が大きな危険因子となっていること、また、逆に認知症発症に対して心の疾患が増悪因子となっていることが判明している。本研究プロジェクトでは、臨床・基礎研究が連携して、両種疾患の交互性について神経生物学的根拠を解明し、新規治療法の手掛かりを得ることをめざす。

(2) 研究組織

(臨床研究)

- ・**認知症とうつ病の実態調査**: 川崎康弘、松田幸久 (P・D)、竹本早知子、橋本玲子、上原 隆、大井一高、嶋田貴充、木原弘晶、新田祐輔、大嶋一彰(以上精神神経科学)。神田享勉、三軒龍昌(以上地域医療学)。森本茂人、奥野太寿生(大学院生)(以上高齢医学)。石崎昌夫(衛生学)。
- ・**内灘町在住高齢者の後方視調査**: 森本茂人、矢野 浩、入谷 敦、森田卓朗(大学院生)、姫野太郎(大学院生)、奥野太寿生、大黒正志、小泉由美、岩井邦充(以上高齢医学)。
- ・**認知症予防因子の研究**: 神田享勉、三軒龍昌(以上地域医療学)。
- ・**高齢者の嗅覚・味覚機能の研究**: 三輪高喜、志賀英明、寺口奏子、山本純平、木下裕子、山田健太郎、能田拓也、張田雅之(以上耳鼻咽喉科学)、川崎康弘、上原 隆、大井一高、嶋田貴充、木原弘晶、新田祐輔、大嶋一彰(以上精神神経科学)。森本茂人(高齢医学)。
- ・**心の危機因子に関する研究**: 北 村 修(法医学)。川崎康弘、松田幸久、上原 隆、大嶋一彰(以上精神神経科学)。森本茂人(高齢医学)。

(基礎研究)

- ・**うつ病・認知症併発モデルマウスの作製**: 加藤伸郎、田嶋信義、山本亮、王敏(P.D)、鄒敬宇(P.D)(以上生理学 I)。米倉秀人、池田崇之、吉富泰央、高辻(齋藤)英仁(以上生化学 II)。
- ・**モデルマウスの遺伝子発現**: 米倉秀人、池田崇之、高辻(齋藤)英仁(以上生化学 II)。石垣靖人、中村有香、辰野貴則(以上総合医学研究所)。
- ・**モデルマウスの神経-血管相互作用解析**: 米倉秀人、吉富泰央(以上生化学 II)。
- ・**母胎間 LIF シグナルリレーの破綻モデルの解析**: 八田稔久、島田ひろき(以上解剖学 I)、村木靖(微生物学)。
- ・**母胎間 LIF シグナルリレーにより誘導されるインターニューロン関連遺伝子群の発現解析**: 八田稔久、島村英理子(以上解剖学 I)、東海林博樹(生物学)。

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- ・脳損傷による認知機能悪化機序の解析:加藤伸郎、田嶋信義、山本 亮、王 敏(以上生理学 I)。石垣靖人、中村有香、辰野貴則(以上総合医学研究所)。
- ・DNA 損傷と神経幹細胞の分化:岩淵邦芳、砂谷優実(以上生化学 I)

(3) 研究施設・設備等

磁気共鳴画像(MRI)撮影室(76.8 m²):機能的磁気共鳴画像用 音・画像刺激提示装置(既設のMRI装置に装着し、患者、健常者の別なく週に1例の測定をおこなっている、一例の所要時間は 60 分である)

脳波測定室(11.42 m²):誘発電位検査装置(既設の脳波記録装置に装着し、患者、健常者の別なく週に1例の測定をおこなっている、一例の所要時間は 60 分である)

脳波測定室(11.42 m²):光トポグラフィ装置 ETG-4000(患者、健常者の別なく週に1又は 2 例の測定をおこなっている、一例の所要時間は 30 分である)。

疾患関連遺伝子解析センター(125 m²):1日平均3人使用、Affymetrix 社 DNA マイクロアレイシステム(1回約 20 時間×月 2 回)、Agilent 社 DNA マイクロアレイシステム(月1回約 20 時間×月 0.6 回)、統合解析ソフトウェア GeneSpring(1回平均約2時間×月 4 回)、遺伝子関連データベース Ingenuity Pathways Analysis(1回平均約2時間×月 2 回)。

内灘町民ホール:2014年12月6日、2015年6月6日、高齢者の嗅覚、味覚機能に関する実験を実施した。

リアルタイム神経活動電位解析室(100 m²):1日平均4人使用、高速高感度タイムラプスシステム(横河電機)(年間約 1300 時間使用)。

総合医学研究所脳エソロジー研究室(72.84 m²):行動解析装置(使用者4人、1日約 3 時間×年間 120 日)。

生理学 I 研究室(約 236 m²):スライス用電気生理計測セット(使用者 5 人、1回平均約 10 時間×月平均 10 回)、うつ様行動解析装置(使用者 5 人、1回平均約 2 時間×月平均1回)

解剖学 I 研究室(約 105 m²)および生物学研究室(約 26 m²):共同利用機器として設置済みである共焦点レーザー顕微鏡 LSM710(Zeiss、使用者延べ 414 人、1日約 3.5 時間、月平均7回)および Cell Voyager 7000(Yokogawa、使用者延べ 177 人、1日約 5 時間、月平均 5 回)。

生化学 II 研究室(約 180 m²):使用者4人、クリンベンチ(1日約 4 時間×年間 250 日)、CO₂ インキュベーター(終日×年間 365 日)、P2 対応セイフティーキャビネット(1日約 2 時間×年間 180 日)、リアルタイム PCR 装置(1日約 3 時間×年間 90 日)

医学部基礎棟動物飼育室(約 380 m²):使用者4人(1日約 2 時間×年間 180 日)

電子顕微鏡施設(約 11 m²):オートファインコーター JFC-1600(日本電子)(使用者 3 人、月4回程度で 1 回あたり 0.5 時間程度)。

走査電子顕微鏡施設(約 33 m²):S-3400N(日立ハイテク)(使用者 3 人、月 8 回程度で 1 回あたり 7 時間程度)。

(4) 研究成果の概要 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

(臨床研究)

住民を対象とした心の健康の啓発普及活動として、内灘町と氷見市において「認知症サポーター養成講座」を開催するために、内灘町と共催で講師(キャラバンメイト)の養成研修を平成 26 年 6 月に開催し、内灘町職員と民生委員、金沢医科大学医学部と看護学部の学生および教員、金沢医科大学病院の医師、看護師、事務職員など、42 名の講師を養成した。同様の研修は平成 27 年 10 月にも、かほく市と共催でおこなわれ 41 名の講師が養成された。さらに、全国キャラバンメイト連絡協議会の主催する認知症サポーター上級者育成ステップアップ講座では、講師派遣を依頼されて協力している。なお、「認知症サポーター養成講座」は平成 25 年度より毎年、医学部 4 年生の講義、看護学部 2 年生の講義に組み込まれており、「キャラバンメイト養成研修」を受講した先輩学生により、計画され実施されている。***1**「認知症サポーター養成講座」「キャラバンメイト養成研修」「キャラバンメイト、スキルアップ研修」による受講者の受講前後の意識変化についての調査をおこない、望ましい研修効果が

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

得られることが確認された。平成 27 年 5 月、平成 28 年 1 月、5 月に、医学部生、看護学生及び附属病院職員延べ 567 名を対象に認知症啓発講演を行った。全体的に認知症患者への関心、関わる際の心理的抵抗感、早期診断・治療の必要性において意識改善がみられた。看護学生と看護師に着目し啓発効果を比較したところ、看護学生においてより強い意識改善効果がみられ、認知症患者と関わる機会が少ないものに対してより強い啓発効果があることが示唆された。

氷見市の僻地医療対象地域に居住する 65 歳以上の高齢者を対象とした現地調査が、平成 25、26、27、28 年の 8 月に二日間かけておこなわれ、平成 26 年には 10 月にも二日間の調査が追加しておこなわれた。調査員は金沢医科大学医学部と看護学部の学生および教員、金沢医科大学病院の医師、看護師、臨床心理士、作業療法士、臨床研修医など、延べ 120 名で、調査手技修得のために事前に 6 時間の「キャラバンメイト、スキルアップ研修」を受けた。延べ 800 戸の訪問調査がおこなわれ 250 例の高齢者住民のデータが収集された。その結果、***2 データの欠損や認知症を含む精神疾患患者のデータを除外し分析した結果、認知症の程度は正常～軽度が全体の 84%を占めたが、中等度以上を示した対象者が 14%おり、認知症を罹患しているが医療機関を受診できていない状況にあることが明らかとなった。**この原因として、調査対象地域が僻地であること、独居または生活を共にするものもやはり後期高齢者であることから、医療機関へのアクセスの困難さが考えられた。認知症の境界兆候、行動・心理症状が強く日常の気分状態と関連し、抑うつ気分、無気力、不安を高める要因であると考えられた。また、認知機能と認知症の中核症状及び嗅覚機能との関連が見出された。毎回の調査結果は、氷見市の包括支援センターや氷見市民病院の地域医療センターと情報を共有し医療機関受診等の契機となった。

金沢医科大学病院では平成 24 年 9 月からうつ状態を呈する対象に身体各種検査(血液検査、神経心理検査、認知機能検査、嗅覚検査、脳波、光トポグラフィ、f-MRIを含むMRI検査)を施行して***3 包括的な評価をおこなう「こころの健康検査入院」を開始し、対象者の同意を得て認知症やうつ病の病態を評価できる生物学的指標の探索をおこなっている。**平成 25 年 5 月より地域連携室に認知症診断の窓口を開設し、高齢診療科と神経科精神科が診断を担当している。***4 診断のための検査としてはSPECTとMRI、および認知機能検査や生活状況調査をもちいてデータ集積し、予備的検討を随時報告している。**また***5 耳鼻咽喉科、高齢診療科、神経科精神科では初診患者に同意を得て嗅覚機能検査を(耳鼻咽喉科では味覚機能検査も加えて)実施し、診断との関連を検討している。**各検査はスクリーニングとして有用であること、高齢者では機能低下に気付いていない可能性が示唆された。問題解決のための地域連携構築の取り組みとして、内灘町および氷見市の包括支援センターと共同で、地域の医療・福祉機関との連絡会議を開催した。

60 歳以上の男女 141 名を対象として、嗅覚同定能測定具「Open Essence」、日常のにおいアンケート、嗅覚 VAS を用いて嗅覚機能を、味の素株式会社により考案された、塩味、甘味、うま味を用いる全口腔法ならびに味覚 VAS を用いて味覚機能を測定した。体組成、握力などの身体測定、食品群別摂取頻度、食欲などのアンケートも同時に行った。***6 その結果、60 歳以上の高齢者では、嗅覚、味覚ともに半数以上が若年成人の正常値よりも有意に低下していることが判明し、それらが高齢者は自覚していないことが判明した。**また、嗅覚味覚機能の低下が、自律高齢者の虚弱と関連する可能性が示唆された。さらに嗅覚味覚機能が低下していても、美味しくためられる食品を提供することが、食べたい気持ちを向上させ、最終的には虚弱予防につながる可能性が見出された。動物実験では、メチマゾールの投与により嗅神経の変性が生じ、変性後の再生が卵巣摘出により遅延し、漢方製剤の当帰芍薬散の投与で促進されることが判明した。

***7 内灘町に在住する高齢者の匿名化生活機能評価基本チェックシートデータ、健康診査データから後に要支援・要介護状態となった対象を抽出し、初年度の独立有意関与因子につき健常例を対照群としてCox-Hazard 回帰分析により検討し、幾つかの特徴が予測因子となり得ることを確認した。**

***8 金沢医科大学における剖検例 134 例の下垂体について病理学組織学的を行い、下垂体疾患を認めた症例は、非自殺群が 9 例/76 例(同群の 11.8%)、自殺群では 17 例/58 例(同群の 29.3%)であり、自殺群で高い傾向を示した。**また氷見市民病院にて経験された精神疾患の治療歴のない自殺例に対する心理学的剖検がおこなわれ、自殺に至る心理的な要因についての精神医学的評価がおこなわれた。

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

(基礎研究)

アルツハイマー病モデルマウス(3xTg-AD モデル)に強制水泳ストレスを与えることにより、うつ状態と認知症を合併したモデルマウスの作製に成功した。うつ病・アルツハイマー病(AD)両者のモデル動物にて、発症過程での器質的な共通性を明らかにした。***12** 第一に、抗うつ療法として知られる電気けいれん刺激や経頭蓋磁気刺激が、AD 治療にも使える可能性を AD モデルマウスで明らかにした。***13** 第二に、AD どうつ病のモデルマウスにおいて、共通して大脳皮質錐体細胞の BK 型 K⁺チャンネルが抑制されていることを発見した。第三に、膜皮質の主要成分であるスフィンゴミエリンとセラミドの構成比異常がうつ病発症と関連し、スフィンゴミエリン合成酵素を一部ノックアウトするとまたアミロイド β 産生が増強されて AD の増悪化をもたらすことも知られているが、***14** 実際に SMS2 ノックアウトマウスでは、強ストレス下でのみ認知障害の顕在化することを見出し、うつ・認知症発症連関に関する新たな視点を提供することができた。

***15** アルツハイマー病モデルマウスに、大脳新皮質に限定した微小な脳損傷を与えると、認知症症状が増悪することを明らかにした。この結果から、大脳皮質の損傷によって発現する何らかの液性因子が、海馬機能に影響を与えることが示唆された。大脳皮質に損傷を与えた正常コントロールマウスとアルツハイマー病モデルマウスを用いて、それぞれの海馬より全RNAを抽出しトランスクリプトーム解析を行ったところ、野生型に比べてアルツハイマー病モデルマウスで、損傷によって1.5倍以上の発現変動を示す遺伝子が十数個存在することを明らかにした。

野性型マウスを用いて、***16** 強制水泳によるストレスを負荷した「うつモデルマウス」を作製し、脳海馬におけるトランスクリプトーム解析を行った。その結果、うつ状態マウスで発現に変動のみられる遺伝子を複数個見出し、それら遺伝子が海馬神経細胞で発現していることをウエスタンブロット法および免疫組織染色で確認した。また、

***17** 神経細胞と血管細胞の相互作用の実態を解明するため、ヒト初代培養血管内皮細胞とマウス後根神経節初代培養細胞との共培養系を用いて神経-血管相互作用により血管内皮細胞で発現誘導される遺伝子として JunB を見出し、組織への shRNA 発現レンチウイルス注入法による遺伝子ノックダウンにより、その機能を明らかにした。

18** 胎盤を介した母体からの LIF 刺激が母-胎児間 LIF-ACTH-LIF シグナルリレー (母胎間 LIF シグナルリレー)を介して、胎児大脳及び造血系の発生において重要な役割を演じていることを明らかにしてきた。LIF シグナルは高度の炎症により影響を受ける可能性があることから、炎症性疾患に罹患した母体環境の胎児大脳発達に及ぼす影響について解析を行った。擬似インフルエンザウイルスである Poly:IC を妊娠母体に投与し、母胎間 LIF シグナルリレーに及ぼす影響を調べたところ、母体 Interleukin 6 (IL-6)レベルは著しく亢進するが、LIF レベルは Poly:IC 高用量投与により低下することが明らかとなった。さらに、Poly:IC 高用量投与によって、胎盤における STAT3 のリン酸化と Pomc mRNA の発現および、胎児末梢血中の ACTH レベルがいずれも低下した。JAK/STAT3 経路の抑制は、この経路を抑制する SOCS3 発現の亢進によることが分かった。さらに、Poly:IC 投与群では胎児大脳における分裂細胞数の減少がみられた。以上より、19** 母体免疫亢進では、母胎間 LIF シグナルリレーの断絶が起こり、胎児脳の発生が影響を受けることが明らかとなった。

また、母胎間 LIF シグナルリレーにおいて、胎盤はハブ器官として重要な役割を演じている。免疫調節機能を有することが知られる ***20** ガレクチンファミリー分子によるオートファジー調節機構が、胎盤形成において重要な役割を演じていることを明らかにした。モデルマウスの脳全体におけるインターニューロンの分布状況を非破壊にて解析する目的で、脳の組織透明化技術の開発を行った。その結果、***21** 通常の単光子共焦点レーザー顕微鏡でも 2 mm 以上の深部観察が可能となる、非常に高性能な透明化プロトコルが完成した。共焦点レーザー顕微鏡あるいは二光子顕微鏡と独自の脳透明化技術を組み合わせることで、脳全体を単一ニューロンレベルでスクリーニング可能な解析系のプロトタイプを確立することができた。さらに、DNA マイクロアレイ解析により、妊娠母体に LIF を投与すると、胎児大脳において、インターニューロン(GABAニューロン)産生促進に重要とされる複数の遺伝子(Dlx1, Dlx2, Dlx5, Dlx6, Nkx2.1, Lhx6, Lhx8, Sox8 等)の発現が亢進することが分かった。こうした遺伝子発現変化について、リアルタイム PCR 法による確認を行うとともに、細胞レベルでの観察を可能にすべく、ホール

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

マウント *in situ* ハイブリダイゼーション法による検出系を構築した。

一方、様々な神経由来細胞株 (C1300 細胞(neuroblastoma)、G26-20 細胞(glioma)、OS-3 細胞(グリア細胞)) に、インフルエンザウイルス (A/Aichi/2/68(H3N2)、強毒株 A/Norway(H1N1prn2009)、弱毒株 A/Osaka(H1N1prn2009)) を感染させると、肺細胞を用いた場合と同様、強毒株 A/Norway と弱毒株 A/Osaka で、細胞内でのウイルス増殖に違いがあることを明らかにした。さらに、***22** インフルエンザウイルスの主要な抗原に対する単クローン抗体が宿主のタンパクに交差反応することを見出した。インフルエンザに感染した個体内でこの抗体が宿主抗原と反応し、分子相同性に基づく疾患を引き起こす可能性がある。そこでこの抗体が認識する線状エピトープのアミノ酸配列を決定した。***23** ヒト由来の培養細胞とマウス由来の臓器を対象として、質量分析法を用いてこの抗体と反応するタンパクを同定した。***24** インフルエンザウイルスの増殖能を規定する要因にウイルスエンベロープに存在するイオンチャンネル蛋白が関与することを明らかにした。

RNA 結合因子 RBM8A は、マウス中枢神経系の発達に必要であり、遺伝子発現の欠損は小頭症を誘発する。***25** RBM8A の細胞でのノックダウンがアポトーシスを誘導すること、中心体の数的な異常を引き起こすことを明らかにした。さらに、RBM8A の 166 および 168 番目の2つのセリンがリン酸化されること、またリン酸化部位の変異体は、通常の核スペckルへの局在が失われることを示した。

***26** 細胞より分泌されるエクソソームが疾患のバイオマーカーとして注目されている現状から、血清からのエクソソームの解析手法の確立を行った。その結果、エクソソーム画分からの RNA 抽出を行いマイクロアレイ解析が可能となった。一方、エクソソームの同定を簡便にするために走査型電子顕微鏡による粒子解析を行った。

ストレス性うつ病では、神経細胞内の活性酸素種上昇により DNA 損傷が発生する可能性が示唆されている。ヒト神経幹細胞株 ReNcell VM 細胞を、活性酸素発生源である過酸化水素添加下で培養すると、DNA 二重鎖切断が出現し、同時に幹細胞がニューロン並びにアストログリアに分化した。DNA 二重鎖切断部位に結合しこれを修復する蛋白質である 53BP1 の発現を抑制すると、活性酸素種による DNA 二重鎖切断数がさらに増加した。一方、***27** 幹細胞性を維持する培地で培養している幹細胞で 53BP1 の発現を抑制すると、過酸化水素を添加していないにも関わらず DNA 二重鎖切断の増加がみられ、さらに幹細胞が分化した。53BP1 による幹細胞の分化は、53BP1 の DNA 結合能とは関連がないものの、DNA 損傷に対する細胞応答である、チェックポイント経路の作動が関与していた。DNA 損傷修復異常が神経幹細胞の枯渇を引き起こす可能性が示唆された。

<優れた成果が上がった点>

(臨床研究)

氷見市の僻地医療対象地域に居住する 65 歳以上の高齢者を対象とした現地調査が、平成 25、26、27、28 年の 8 月に二日間かけて、平成 26 年には 10 月にも二日間の調査がおこなわれた。現地調査に関する新聞報道を資料 1 に示した。調査員は金沢医科大学医学部と看護学部の学生および教員、金沢医科大学病院の医師、看護師、臨床心理士、作業療法士、臨床研修医など、延べ 120 名で、調査手技修得のために事前に 6 時間の「キャラバンメイト、スキルアップ研修」を受けた。延べ 800 戸の訪問調査がおこなわれ 300 例の高齢者住民のデータが収集された。その結果、対象高齢者の認知症の程度は境界域から軽度であり、生活障害度、認知機能、嗅覚機能の成績には関連が見られた。毎回の調査結果は、氷見市の包括支援センターや氷見市民病院の地域医療センターと情報を共有し医療機関受診等の契機となった。

Open Essence による嗅覚スクリーニングおよび全口腔法による味覚スクリーニングは、嗅覚、味覚機能を評価するうえで有効な方法であることが判明した。また、高齢者は自身の感覚機能の低下に気づいていない可能性があること、更年期の女性では嗅覚の再生が衰えることが示唆された。

***9** 内灘町における平成 20 年度の匿名化生活機能評価基本チェックシートデータ、健康診査データを有する地域在住高齢者 1,078 名のうち、平成 24 年度末まで 5 年間に 53 例が死亡し、また 135 名が要支援・要介護認定を受けた。このうち主治医意見書の第一病名より 32 名の認知症による要支援・要介護状態を特定し、この群に対する初年度の独立有意関与因子につき 5 年間健常例 905 名を対照群として、年齢、性、有意傾向 (p<0.20) を

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

示す付加的質問項目、既往疾患、合併症で補正した Cox-Hazard 回帰分析により検討した。***10** 地域在住高齢者 1,078 名のうち、心電図異常有り群 408 例では心電図異常無し群 670 例に比し初回要支援・要介護認定と死亡ともに有意に高率であり、またサブクラス解析では心疾患既往が無い不整脈および ST/T 異常が認知症による認定と独立有意に関連していた。***11** また 1,078 例のうち糖尿病治療例 184 例において 5 年間に 42 例が要支援・要介護認定を受け、13 例が死亡したが、認定率は HbA1c 6.5-7.0%群で底値を示し、この群に比し HbA1c <6.0%群で有意に高率であり、また主治医意見書の第一病名が認知症とされた 13 例で、HbA1c >6.0%群を対照群とすると、HbA1c <6.0%群で認知症による認定が有意に高率であった。

(基礎研究)

アルツハイマー病とうつ病の発症において共通点があるのでないかとの当初の着想に基づき、アルツハイマー病モデルマウスに強制水泳を行わせることでうつ病状態を作り出し、臨床的にしばしばみられるアルツハイマー病とうつ病を合併したモデルマウスの作製に成功した。このマウスを用いて、①抗うつ療法がアルツハイマー病に効果がある、②両疾患に共通の K⁺チャンネル異常が存在する、③うつ病にみられる細胞膜リン脂質の組成異常がアルツハイマー病の原因となるアミロイド β 産生を亢進するなど、両疾患に共通する点を見出せたことが最も優れた成果である。この成果は、うつ・認知症関連疾患の病態と治療に対して新たな視点を与えるものと期待される。

うつ状態マウス脳での遺伝子発現パターンの変化を初めて明らかにした点、神経と血管の相互作用が互いの組織構築に重要であることを in vivo で明らかにした点も重要な成果である。この研究過程で確立された、組織へ shRNA 発現レンチウイルスを注入することで簡便に組織特異的に遺伝子ノックダウンを行う方法は、今後様々な研究に応用が可能であると予想される。

妊娠期の母体に与えられた病的刺激が、母胎間 LIF シグナルリレーの破たんを引き起こし、胎児脳の形成を障害することが、インフルエンザ感染を擬した疑似二本鎖 RNA の母体への注入実験で明らかになった。この成果は、インフルエンザの流行年に誕生した児において、将来自閉症スペクトラム障害を発症する確率が有意に高いという所見と合致しており、臨床的な意義が大きい。この研究の過程で開発された、脳組織の透明化技術は、共焦点レーザー顕微鏡あるいは二光子顕微鏡と組み合わせることで、脳全体における遺伝子発現状態を単一ニューロンレベルで解析することを可能にし、今後の応用が期待される。

RNA 結合タンパク質や DNA 損傷修復タンパク質が、脳の発生に関与していることは以前から知られているが、新たに RBM8A、53BP1 が、脳の発生や神経幹細胞の維持に関与していることが明らかになった。

患者や、モデルマウスから採取された尿、血液は、多くのエクソソームを含んでおり、その解析は、疾患の診断、治療法の開発に大きな知見を与えることが予想される。本研究の過程で、走査型電子顕微鏡による粒子解析で、従来の透過型電子顕微鏡によるものと同程度の精度で、しかもより簡便にエクソソームを同定する技術を開発した。これも、今後の応用が期待される。

<課題となった点>

(臨床研究)

僻地高齢者の現地調査では、対象集団の特徴を定量的に観察評価できるまでの症例数を得ることは困難であるため、質的研究や症例研究の手法をもちいる必要がある。高齢者の病態と関連する生物学的な特徴を科学的に抽出するために、金沢医科大学病院と氷見市民病院を受診する高齢者を対象に臨床研究をおこなっているが、地域連携を強化しながら対象の収集に努め、調査や診療連携に使用している指標に加えて、病態を評価する高度な医学的検査も施行する。

Open Essence による嗅覚スクリーニング検査では、耳鼻咽喉科における予備的検討では対象者数が少なく十分な検討が行われなかったため、高齢診療科と神経科精神科においても検査を実施し、対象を増やすことにより、嗅覚、味覚機能が栄養状態、精神運動機能の変化に影響を及ぼすか否か判定を試みている。

(基礎研究)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

当初、shRNA 発現レンチウイルスを、精子へ注入し遺伝子発現欠損マウスを作製する、あるいは脳局所へ注入し部位特異的な遺伝子発現欠損マウスを作製する予定であった。しかしながら、これらの試みが成功せず、使用したモデルマウスは、既知のモデルの組み合わせであったり、偶発的に見出された発症関連モデルにとどまった。研究課題に掲げた「発生工学的的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発」という点では不十分であり、これが最大の課題である。またアルツハイマー病とうつ病の合併モデルマウスの作製において、うつ状態の誘導を強制水泳法だけに頼っていた点が問題である。特定の遺伝子発現抑制も含めた、他の方法によるうつ病の作製を検討すべきであった。

研究の進捗により、様々な新たな課題も見出された。うつ病モデルマウスで発現変動する遺伝子を同定したが、脳での部位特異的・時期特異的な遺伝子発現抑制法が未だ確立しておらず、それらの遺伝子のうつ病発症における役割を明らかにするまでには至らなかった。また、様々な遺伝子発現を脳全体で定量化するにあたり、従来の *in situ* ハイブリダイゼーション法では難しいことが判明した。現在新たに、脳全体を用いて、蛍光標識で遺伝子発現を定量化する方法を開発中である。RBM8A リン酸化部位の同定には成功したが、キナーゼは未だに明らかにできなかった。53BP1 欠損による神経幹細胞の分化が、*in vivo* で見られるかどうかまでは調べる事ができなかった。

走査型電子顕微鏡を用いた、より簡便な新たなエキソソーム観察法の確立には成功したが、さらに簡便に短時間でエキソソームを観察することができると予想される、イオン液体法によるエキソソーム観察法については、アーチファクトを解消できなかった、適切なサンプル調製法を確立できなかったなどの理由で、未完である。

<自己評価の実施結果と対応状況>

毎年度末に、学内向けの報告書を作製するとともに、学内で公開の成果報告会を開催し、学内研究者からの評価や意見を聞いてきた。それらの意見に基づき、グループ内外の研究者間での共同研究が進展した。また、研究期間内に、shRNA 発現レンチウイルス注入による組織特異的に遺伝子ノックダウン法、全脳解析を目的とする脳組織透明化技術、走査型電子顕微鏡を用いたより簡便なエキソソーム観察法など、様々な新たな技術が開発された。これらの方法は、グループ内外の研究者に公開され、利用できる状態となっている。

<外部(第三者)評価の実施結果と対応状況>

毎年度初めに前年度の成果報告会を開催し(研究成果発表及び公開シンポジウムの項を参照)、プロジェクトメンバーではない学内研究者の意見を聞く場を設け、その意見を翌年度の研究に反映させた。しかしながら、外部評価機構の整備については不十分であった点は否めない。

<研究期間終了後の展望>

(臨床研究)

引き続き能登地域における高齢者の認知症とうつ病の実態把握と包括的な介入・診療・研究拠点の形成をめざす。すなわち①住民を対象とした心の健康の啓発普及活動:内灘町、氷見市において「認知症サポーター養成講座」を開催する、②現地での個別訪問調査による実態把握:これまでの対象者の追跡をおこなうとともに、新たな対象者を得るために調査地域や調査回数を増やす、③問題解決のための地域連携構築の3段階の活動を継続する。妥当性や再現性の高い認知症やうつ病の病態診断や評価法を開発し、これらの活動に用いることで、その有用性を検証する。開発の段階では基礎研究で見いだされた知見の確認や応用も積極的におこなう。

金沢医科大学病院内に認知症センターが開設され、高齢医学科と神経科精神科が中心となり診療活動を開始している。主な活動としては①専任スタッフ(医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー)による診療体制、②MRI、SPECT を用いた画像診断の活用、③NCGG-FAT(国立長寿医療研究センター開発)を用いた軽度認知機能障害(MCI)の早期発見、④予防への取り組み(認知症予防教室の開催、MCI スクリーニング検査の導入)、⑤地域医療機関との連携を重視した診療(認知症連携シートを活用した情報共有への取り組み)、などが

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

おこなわれる。

(基礎研究)

細胞膜リン脂質の組成異常が、うつ病、アルツハイマー病の両者に関与しているという発見は非常に興味深い。両疾患に対する細胞膜リン脂質代謝の関与をさらに明らかにするために、スフィンゴミエリン合成酵素を一部欠損ではなく全部欠損したマウスモデル、およびアルツハイマー病マウスにおいて同合成酵素を遺伝的に欠損させたマウスを現在作成中であり、これらを新規のうつ病・アルツハイマー病の発症関連モデルとして使った研究を推進する。リン脂質代謝を標的とした、新たな治療法の開発につながることを期待される。

うつ病モデルマウスで発現が変動する遺伝子を同定した。これらの遺伝子を、脳の部位特異的・時期特異的に発現抑制することで、これらの遺伝子のうつ病発症における役割を明らかにしていく。また、これらの遺伝子の発現がアルツハイマー病モデルマウスで変動しているか否かも調べる。うつ病、アルツハイマー病の診断に有用な遺伝子を見出せる可能性がある。

妊娠時母体の炎症による胎児脳形成障害研究では、疑似二本鎖RNAではなく、インフルエンザウイルスそのものを妊娠母体に感染させて、胎児脳形成について調べる。妊娠母体のウイルス感染に伴う炎症の程度と胎児脳形成障害の関連性を明らかにすることは、母体炎症性マーカーを用いた胎児脳発育の予後予測する技術の開発につながる。これは同時に、妊娠母体管理の指標としても有用である。インターニューロンのサブタイプレベルでの詳細な影響の検索においては、通常の組織切片の解析だけでは断片的な解析に陥る可能性があるため、非破壊にて脳全体を解析する方法論の導入が必要であると考えられた。これに対して、全脳解析を目的とする脳組織透明化技術の新規開発を進め、脳全体を非破壊にて単一ニューロンレベルで高速スクリーニング可能なシステムの完成を目指す。

脳の発生に関与する可能性のある新たな遺伝子として RBM8A、53BP1 が見出された。今後、RBM8A リン酸化が脳発生に及ぼす影響、53BP1 の神経幹細胞における機能を、RBM8A 遺伝子ノックインマウスや、53BP1 欠損マウスを用いて明らかにしていく。小頭症や失調性疾患の発症に対する新たな知見につながることを期待される。

患者血清や、モデルマウスの脳を用いたトランスクリプトーム解析、エクソソーム解析は、アルツハイマー病、うつ病、それぞれに対する新たな診断マーカーの発見に繋がることが期待される。また、これらの診断マーカーは、アルツハイマー病、うつ病、およびその合併例の鑑別診断に役立つ可能性がある。

<研究成果の副次的効果>

以下の特許を取得した。

名称;METHOD FOR ENUCLEATING NUCLEATED ERYTHROCYTE,
AND ENUCLEATION INDUCER

特許番号;9,290,737B2

登録日;2016年3月22日

発明者;Toshihisa Hatta

権利者;Kanazawa Medical University

種類;特許

状態;権利化済

名称;Kit for producing cleared biological specimens and method for producing cleared biological specimens (透明化生物標本作製用キット及び透明化生物標本作製方法)

発明者;八田稔久、内芝舞実、東 伸明、島田ひろき、島村英理子

権利者;学校法人 金沢医科大学

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

種類:特許権

当所受理番号:F15590H/US

国際出願番号:PCT/JP2013/079388

番号:14/439.447

公開番号:US-2015-0285718-A1

公開日:2015年10月8日

国内外の別:外国(米国)

名称:Kit for producing cleared biological specimens and method for producing cleared biological specimens (透明化生物標本作製用キット及び透明化生物標本作製方法)

発明者:八田稔久、内芝舞実、東 伸明、島田ひろき、島村英理子

権利者:学校法人 金沢医科大学

種類:特許権

当所受理番号:F15590H/EP

国際出願番号:PCT/JP2013/079388

番号:13850135.8

公開番号:2926658

公開日:2015年10月7日

国内外の別:外国(EP)

名称:赤芽球の脱核方法及び脱核赤血球

発明者:八田稔久、島村英理子、島田ひろき、仲島百合子

権利者:学校法人 金沢医科大学

種類:特許権

番号:PCT/JP2014/62205号

出願年月日:2014年5月6日

国内外の別:外国

名称:赤芽球の脱核方法及び脱核赤血球の維持方法

発明者:八田稔久、島村英理子、

権利者:学校法人 金沢医科大学

種類:特許権

番号:特願 2013-097312

出願年月日:2013年5月7日

国内外の別:国内(日本国移行)

名称:透明化生物標本作製用キット及び透明化生物標本作製方法

発明者:八田稔久、内芝舞実、東 伸明、島田ひろき、島村英理子

権利者:学校法人 金沢医科大学

種類:特許権

番号:PCT/JP2013/079388

出願年月日:2013年10月30日

国内外の別:外国

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

名称:透明化生物標本作製方法及び透明化生物標本作製用キット
 発明者:八田稔久、内芝舞実、東 伸明、島村英理子、島田ひろき
 権利者:学校法人 金沢医科大学
 種類:特許権
 番号:特願 2012-239465
 出願年月日:2012年10月30日
 国内外の別:国内

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) 僻地医療 (2) 高齢者医療 (3) 嗅覚機能
 (4) アルツハイマー病 (5) うつ病 (6) 胎児起源仮説
 (7) インフルエンザウイルス (8) トランスクリプトーム

13 研究発表の状況(研究論文等公表状況。印刷中も含む。)

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

(臨床研究) ◎の論文は6. 主要論文別冊に付けてある。

- ◎*10 Okuno T, Watanabe K, Nakajima K, Iritani O, Yano H, Morita T, Himeno T, Igarashi Y, Okuro M, Morimoto S : Major ECG abnormality predicts support/care-need certification and/or death in community-dwelling elderly subjects with no history of cardiovascular disease, Geriatrics Gerontology International(in press)(2017) 査読有
- ◎*1 松田幸久、上原隆、石崎昌夫、橋本玲子、竹本早知子、川崎康弘 : 認知症サポーターキャラバン・スキルアップ編講座による認知症の知識向上に対する学習効果. 日本認知症予防学会誌. (in press) 査読有
- ◎*11 Morita T, Okuno T, Himeno T, Watanabe K, Nakajima K, Koizumi Y, Yano H, Osamu Iritani O, Okuro M, Morimoto S : Glycemic control and disability-free survival in hypoglycemic agent-treated community-dwelling older patients with type 2 diabetes mellitus, Geriatrics Gerontology International, (in press), (2017) 査読有
- ◎Takamura A, Sangen R, Furumura Y, Usuda D, Kasamaki Y, Kanda T : Diagnosis of myxedema coma complicated by renal failure: a case report. Clin Case Rep. 21;5(4):399-402. (2017) 査読有
- ◎Mizuno T, Kiyosawa J, Fukuda A, Watanabe S, Kurose N, Nojima T, Kanda T : Infective endocarditis following tumor necrosis factor- α antagonist therapy for management of psoriatic erythroderma: a case report. J Med Case Rep. 9;11(1):35. (2017) 査読有
- ◎*3 Yasuyama T, Ohi K, Shimada T, Uehara T, Kawasaki Y : Differences in social functioning among patients with major psychiatric disorders: Interpersonal communication is impaired in patients with schizophrenia and correlates with an increase in schizotypal traits, Psychiatry Res. 249:30-34. (2017) 査読有
- ◎*3 Ohi K, Shimada T, Kihara H, Yasuyama T, Sawai K, Matsuda Y, Oshima K, Okubo H, Nitta Y, Uehara T, Kawasaki Y : Impact of Familial Loading on Prefrontal Activation in Major Psychiatric Disorders:

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- A Near-Infrared Spectroscopy (NIRS) Study. Sci Rep. 15;7:44268. (2017) 査読有
8. ◎*5 Ryo Y, Takeuchi M, Ueda N, Ohi K, Kihara H, Shimada T, Uehara T, Kawasaki Y : Olfactory function in neuropsychiatric disorders. Psychiatry Res. 2;252:175-179. (2017) 査読有
 9. *5 三輪高喜 : 耳鼻咽喉科検査マニュアル 嗅覚検査, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 89 巻, 202-206, (2017) 査読無
 10. ◎*5 三輪高喜 : 高齢女性の嗅覚障害, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 89 巻, 250-255, (2017) 査読無
 11. ◎*5 三輪高喜 : 嗅細胞の再生と神経成長因子, JOHNS, 33 巻, 153-156, (2017) 査読無
 12. ◎*7 Ishiki A, Okinaga S, Tomita N, Kawahara R, Tsuji I, Nagatomi R, Taki Y, Takahashi T, Kuzuya M, Morimoto S, Iijima K, Koseki T, Arai H, Furukawa K : Changes in cognitive functions in the elderly living in temporary housing after the Great East Japan Earthquake, PLoS One, 11(1) : e0147025, (2016) 査読有
 13. Hamazaki Y, Morikawa Y, Morimoto S, Nakagawa H : Difference in the impact of homebound status on functional decline between independent older men and women: A 2 year follow-up study, Jpn J Nurs Sci, 13: 265-275, (2016) 査読有
 14. Sangen R, Kanda T : Adult-onset Still's disease in elderly patients; Case reports and a review of literature. Journal of Kanazawa Medical University, 41, 32-35. (2016) 査読有
 15. ◎Usuda D, Arahata M, Temaru R, Iinuma Y, Kanda T : Hayashi S : Autopsy-Proven Intravascular Lymphoma Presenting as Rapidly Recurrent Strokes. Case Rep Oncol. 2;9(1):148-153. (2016) 査読有
 16. ◎Usuda D, Sangen R, Hashimoto Y, Muranaka E, Iinuma Y, Kanda T : Validation of a B-type natriuretic peptide as a prognostic marker in pneumonia patients: a prospective cohort study, BMJ Open. 6(2):e010440. (2016) 査読有
 17. ◎He WT, Mori M, Yu XF, Kanda T : Higher BNP levels within physiological range correlate with beneficial nonfasting lipid profiles in the elderly: a cross-sectional study. Lipids Health Dis. 15:3. (2016) 査読有
 18. ◎*2 Sakurai M, Nakamura K, Miura K, Takamura T, Yoshita K, Nagasawa SY, Morikawa Y, Ishizaki M, Kido T, Naruse Y, Nakashima M, Nogawa K, Suwazono Y, Sasaki S, Nakagawa H : Dietary carbohydrate intake, presence of obesity and the incident risk of type 2 diabetes in Japanese men, J Diabetes Investig. 7:343-351, (2016) 査読有
 19. ◎Yoneyama S, Makita Y, Miyazu K, Katsukawa K, Yoneyama E, Masuda S, Nakajima Y, Kawasaki Y, Miyazu K : The Role of Family Variables in the Length of Stay of Psychiatric In-patients. Clinical practice and epidemiology in mental health. 12: 87-93. (2016) 査読有
 20. Ohi K, Shimada T, Nitta Y, Kihara H, Okubo H, Uehara T, Kawasaki Y : Schizophrenia risk variants in ITIH4 and CALN1 regulate gene expression in the dorsolateral prefrontal cortex. Psychiatr Genet. 26(3):142-143. (2016) 査読有
 21. Ohi K, Shimada T, Nitta Y, Kihara H, Okubo H, Uehara T, Kawasaki Y : Specific gene expression patterns of 108 schizophrenia associated loci in cortex. Schizophr Res. 174(1-3):35-38. (2016) 査読有
 22. ◎*3 Ohi K, Shimada T, Nitta Y, Kihara H, Okubo H, Uehara T, Kawasaki Y : The Five-Factor Model personality traits in schizophrenia: A meta-analysis, Psychiatry Res. 30;240:34-41. (2016) 査読有
 23. ◎*4 Ohi K, Matsuda Y, Shimada T, Yasuyama T, Oshima K, Sawai K, Kihara H, Nitta Y, Okubo H, Uehara T, Kawasaki Y : Structural alterations of the superior temporal gyrus in schizophrenia: Detailed subregional differences, Eur Psychiatry. 35:25-31. (2016) 査読有
 24. ◎*5 三輪高喜 : 嗅覚機能検査の進め方, Clinical Neuroscience, 34 巻, 1331-1334, (2016) 査読無
 25. ◎*5 三輪高喜 : 嗅覚障害診療とメディカルスタッフ, JOHNS, 32 巻, 471-473, (2016) 査読無
 26. *9 入谷 敦, 奥野太寿生, 森本茂人 : Information Up-to-Date 1328 高齢者の血清 25-ヒドロキシビタミン D と起立性低血圧. 血圧, 22:72-73, (2015) 査読有

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

27. ◎*9 Higashikawa T, Hamazaki Y, Iritani O, Morita T, Himeno T, Okuno T, Yano H, Watanabe K, Okuro M, **Kanda T, Morimoto S** : Blood pressure and disability-free survival among community-dwelling diabetic and non-diabetic elderly patients receiving antihypertensive treatment, Geriatrics Gerontology International, 16: 365-373 (2015) 査読有
28. ◎Sakamoto D, Sakamoto S, **Kanda T** : Validation of circulating BNP level >1000pg/ml in all-cause mortality: A retrospective study. J Int Med Res. 43(4):583-591. (2015) 査読有
29. Hashimoto Y, Iwata Y, Sangen R, Usuda D, **Kanda T**, Sakamoto D, Takagi S, Sakamoto S : Pericardial biopsy revealed gastric signet-ring cell cancer. Case Rep Oncol. 8(1):174-178. (2015) 査読有
30. ◎*2 浜崎優子, 森河裕子, **森本茂人**, 中島素子, 長井麻希江, 中川秀昭 : 虚弱高齢者に対する「声かけ訪問」のための介護予防サポーター養成プログラムの実施と評価, 北陸公衆衛生学会誌, 41: 22-31, (2015) 査読有
31. *5 **三輪高喜** : 嗅覚障害に対する漢方薬の効果, 漢方医学, 39 巻, 222-225, (2015) 査読無
32. **三輪高喜** : 味覚障害のリハビリテーション, J. Clinical Rehabilitation, 24 巻, 1146-1151, (2015) 査読無
33. *5 **三輪高喜** : 耳鼻咽喉科漢方処方ベストマッチ 嗅覚障害, ENTONI, 185 巻, 52-58, (2015) 査読無
34. *5 **三輪高喜** : 心因性味覚障害・嗅覚障害, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 87 巻, 892-896, (2015) 査読無
35. *5 **三輪高喜** : 味覚障害の疫学と臨床像, 耳鼻咽喉科・頭頸部外科, 87 巻, 626-633, (2015) 査読無
36. *5, 6 **三輪高喜** : 高齢者の味覚障害, 臨床栄養, 127 巻, 43-48, (2015) 査読無
37. ◎*5, 6 **三輪高喜** : 高齢者の嗅覚障害, Geriatric Medicine, 53 巻, 325-329, (2015) 査読無
38. ◎*5 **三輪高喜** : 嗅覚異常の臨床的特徴とその対応, 医学のあゆみ, 253 巻, 509-513, (2015) 査読無
39. ◎*2 **川崎康弘**, 松田幸久, 竹本早知子, 橋本玲子, 上原隆, 大嶋一彰, 玉井颯, **神田享勉**, **石崎昌夫**, **三輪高喜**, **森本茂人** : 能登地域における高齢社会のヘルスケアシステム構築 —金沢医科大学の試み—, 金医大誌, 40:119-124 (2015) 査読有
40. ◎*4 松田幸久, 渡辺健一郎, 木原弘晶, **川崎康弘** : うつ病・躁うつ病におけるNIRSデータの時空間特性を活用した機械的鑑別補助法の作成. 信学技報, 115:259-262 (2015) 査読有
41. ◎*2 松田幸久, 竹本早知子, 橋本玲子, 玉井颯, **神田享勉**, **石崎昌夫**, **三輪高喜**, **森本茂人**, **北村修**, **川崎康弘** : 富山県氷見市のへき地居住者に対する認知症スクリーニング調査. 金医大誌, 39:67-74. (2015) 査読有
42. *2 水野雅文, 鈴木道雄, 松本和紀, 中込和幸, 下寺信次, 盛本翼, 岸本年史, **川崎康弘**, 船渡川智之, 根本隆洋, 藤井千代 : 地域ケア時代における精神疾患 早期発見・早期支援の課題と可能性. 精神医学 57:89-103, (2015) 査読有
43. ◎*9 Iritani O, Koizumi Y, Hamazaki Y, Yano H, Morita T, Himeno T, Okuno T, Okuro M, Iwai K, **Morimoto S** : Association between blood pressure and disability-free survival among community-dwelling elderly patients receiving antihypertensive treatment, Hypertension Research, 37: 772-778, (2014) 査読有
44. ◎Usuda D, **Kanda T** : Peroxisome proliferator-activated receptors for hypertension. World J Cardiol. 6(8):744-754. (2014) 査読有
45. Mizuno T, Ishigami K, Yamada S, Tsuchiya H, Nakajima C, Sangen R, Fukushima M, Minato H, Nojima N, Saito A, Hayashi N, Atsumi H, Ito T, Iguchi M, Usuda D, Okamura H, Urashima S, Asano M, Kiyosawa J, Fukuda A, Takekoshi N, **Kanda T** : Endocardial Invasion of Lung Cancer Undiagnosable before Autopsy. Case Rep Oncol. 7(1):144-148. (2014) 査読有
46. ◎*2 Yoneyama S, Sakurai M, Nakamura K, Morikawa Y, Miura K, Nakashima M, Yoshita K, **Ishizaki M**, Kido T, Naruse Y, Nogawa K, Suwazono Y, Sasaki S, Nakagawa H : Associations between rice, noodle, and bread intake and sleep quality in Japanese men and women. PLoS One, 9(8) :e105198, (2014) 査読有

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

47. 入谷 敦, 森本茂人 : 臨床各科 差分解説 加齢医学 認知症診療高齢者の急増, 日本医事新報, No.4698:p60, (2014) 査読有
48. ◎*9 大黒正志, 森本茂人 : 特集:サルコペニアとフレイルー臨床と研究の最前線ー4. サルコペニア、フレイルにおけるビタミンDの意義, Geriatric Medicine (老年医学), 52(4):353-357, (2014) 査読有
49. 入谷 敦, 森本茂人 : 臨床各科 差分解説 内科:老年科 終末期医療と胃瘻, 日本医事新報, No.4702:p57, (2014) 査読無
50. 川崎康弘 : 計算論的精神医学における NMDA 受容体機能の意義と可能性. 臨床神経薬理. 17:1475-1483. (2014) 査読有
51. Higuchi Y, Seo T, Miyanishi T, Kawasaki Y, Suzuki M, Sumiyoshi T : Mismatch negativity and p3a/reorienting complex in subjects with schizophrenia or at-risk mental state. Front Behav Neurosci, 8: 172, (2014) 査読有
52. Shiga H, Nagaoka M, Washiyama K, Yamamoto J, Yamada K, Noda T, Harita M, Amano R, Miwa T : Reduced nasal transport of insulin-like growth factor-1 to the mouse cerebrum with olfactory bulb resection. Chem Senses, 39, 595-599, (2014) 査読有
53. *5 三輪高喜 : 嗅覚と遺伝子, JOHNS, 30 巻, 709-713, (2014) 査読無
54. ◎*5 三輪高喜 : 簡便な嗅覚検査, JOHNS, 30 巻, 586-588, (2014) 査読無
55. *5 三輪高喜 : 口腔機能異常と中枢疾患, ENTONI, 166 巻, 21-26, (2014) 査読無
56. ◎*5 三輪高喜 : 嗅覚障害の疫学と臨床像, 日本医師会雑誌, 142 巻, 2623-2626, (2014) 査読無
57. Usuda D, Hashimoto Y, Muranaka E, Okamura H, Kanda T, Urashima S : Primary Duodenal Adenocarcinoma without Stenosis, A Case Report with a Brief Literature Review. Case Rep Oncol 7(2): 444-451, (2014) 査読有
58. ◎Mizuno T, Mizuno S, Kanda T : Effects of vaccination and the new neuraminidase inhibitor, laninamivir, on influenza infection. PLoS One 9(4): e92601, (2014) 査読有
59. *5 紋川友美, 紋川明和, 渡辺健一郎, 川崎康弘 : 高齢者における嫉妬妄想の臨床的検討, 精神, 24:135-140, (2014) 査読有
60. ◎*2 川崎康弘 : 能登地域における高齢社会のヘルスケアシステム構築-金沢医科大学の試み-, 石川医報 1555: 30-32 (2014) 査読無
61. Mizuno T, Ishigaki M, Nakajima K, Matsue T, Fukushima M, Minato H, Nojima N, Atsushi S, Ishigami K, Atsumi H, Ito T, Iguchi M, Usuda D, Okamura H, Urashima S, Asano M, Fukuda A, Izumi Y, Takekoshi N, Kanda T : Spontaneous remission of Epstein-Barr virus-positive diffuse large B-cell lymphoma of the elderly. Case Rep Oncol 6(2): 269-274, (2013) 査読有
62. ◎Koizumi Y, Hamazaki Y, Okuro M, Iritani O, Yano H, Higashikawa T, Iwai K, Morimoto S : Association between status of hypertension and screening test for frailty in community-dwelling elderly Japanese. Hypertension Research 36(7): 639-644, (2013) 査読有
63. Kamide K, Asayama K, Katsuya T, Ohkubo T, Hirose T, Inoue R, Metoki H, Kikuya M, Obara T, Hanada H, Thijs L, Kuznetsova T, Noguchi Y, Sugimoto K, Ohishi M, Morimoto S, Nakahashi T, Takiuchi S, Ishimitsu T, Tsuchihashi T, Soma M, Higaki J, Matsuura H, Shinagawa T, Sasaguri T, Miki T, Takeda K, Shimamoto K, Ueno M, Hosomi N, Kato, Komai N, Kojima S, Sase K, Miyata T, Tomoike H, Kawano Y, GEANE study group, Ogihara T, Rakugi H, Jan A. Staessen, Imai Y, HOMED-BP study group : Genome-wide response to antihypertensive medication using home blood pressure measurements: a pilot study nested within the HOMED-BP study. Pharmacogenomics 14(14): 1709-1721, (2013) 査読有
64. 森本茂人 : 高齢者の救急搬送, 救急入院が必要な病態, 第 54 会日本老年医学会学術集会記録<Meet the Expert> 日本老年医学会雑誌, 50(2):155-157, (2013) 査読無
65. 入谷 敦, 森本茂人 : どうする?! 糖尿病患者の Common Disease 対応 肺炎, 糖尿病診療マスター, 11(4) : 402-405, (2013) 査読無
66. 入谷 敦, 森本茂人 : Information Up-to-Date1248 超高齢者における白衣高血圧治療の効果-HYVET 試験サブ解析の結果より- 血圧, 6:544-545, (2013) 査読有
67. 森本茂人 : 転倒時の骨折防ぐプロテクターフィット感や着けやすさを向上, 新産業創出のための総合的支援情報誌「ISICO」, 71:6-7, (2013) 査読無
68. 大黒正志, 森本茂人 : Information Up-to-Date1249 乾癬と高血圧, 血圧, 20(7):656-657, (2013) 査読有
69. 森本茂人 : WS:老年医学教育のあり方を考える~学部教育から専門医教育まで~5. 高齢者救急, 日本老年医学会雑誌, 50(4):506-509, (2013) 査読有
70. *5 Shiga H, Taki J, Washiyama K, Yamamoto J, Kinase S, Okuda S, Kinuya S, Watanabe N, Tonami H,

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- Koshida K, Amano R, Furukawa M, Miwa T : Assessment of olfactory nerve by SPECT-MRI image with nasal thallium-201 administration in patients with olfactory impairments in comparison to healthy volunteers. PLoS One, 8(2), e57671, (2013) 査読有
71. ◎*2 Morikawa Y, Sakurai M, Nakamura K, Nagasawa SY, Ishizaki M, Kido T, Naruse Y, Nakagawa H : Correlation between shift-work-related sleep problems and heavy drinking in Japanese male factory workers. Alcohol Alcohol. 48:202-206, (2013) 査読有
72. ◎*2 Ishizaki M, Kawakami N, Honda R, Yamada Y, Nakagawa H, Morikawa Y, The Work Stress and Health Cohort Study Group : A prospective study of psychosocial work characteristics and long sick leave of Japanese male employees in multiple workplaces. Ind Health. 51:398-405, (2013) 査読有
73. *5 三輪高喜 : 嗅覚障害の診断と治療, 耳鼻頭頸, 85 巻, 968-973, (2013) 査読無
74. *5 三輪高喜 : 鼻副鼻腔領域の検査 基準嗅力検査, JOHNS, 29 巻, 1587-1589, (2013) 査読無
75. *5 三輪高喜 : 糖尿病と味覚障害, 嗅覚障害, ENTONI, 161 巻, 33-39, (2013) 査読無
76. *5 志賀英明, 三輪高喜 : 嗅覚障害をきたす脳疾患, ENTONI, 157 巻, 59-63, (2013) 査読無
77. *5 山本純平, 志賀英明, 三輪高喜 : 耳鼻咽喉科領域で用いる漢方薬 加味帰脾湯, JOHNS, 29 巻, 2034-2036, (2013) 査読有
78. *5 志賀英明, 長岡三樹矢, 鷺山幸信, 山本純平, 天野良平, 三輪高喜 : 嗅球除去によるインスリン様神経成長因子1脳内輸送の低下, 耳鼻咽喉科ニューロサイエンス, 27 巻, 62-64, (2013) 査読有
79. *5 三輪高喜 : 外傷性嗅覚障害, ENTONI, 155 巻, 61-67, (2013) 査読無
80. *5 三輪高喜 : 局所副腎皮質ステロイドの正しい使い方 嗅覚障害, 耳鼻頭頸, 85 巻, 92-95, (2013) 査読無
81. 酒井あや, 梅博久, 立花修, 三輪高喜 : 睡眠時呼吸障害に対する先端巨大症の手術治療の効果, 日耳鼻誌, 116 巻, 612-618, (2013) 査読有
82. Higuchi Y, Sumiyoshi T, Seo T, Miyanishi T, Kawasaki Y, Suzuki M : Mismatch negativity and cognitive performance for the prediction of psychosis in subjects with at-risk mental state. PLoS ONE 8(1) : e54080, (2013) 査読有
83. Takahashi T, Nakamura Y, Nakamura K, Ikeda E, Furuichi A, Kido M, Kawasaki Y, Noguchi K, Seto H, Suzuki M : Altered depth of the olfactory sulcus in first-episode schizophrenia. Prog. Neuropsychopharmacol. Biol. Psychiatry 40: 167-172, (2013) 査読有
84. Takahashi T, Nakamura K, Nishiyama S, Furuichi A, Ikeda E, Kido M, Nakamura Y, Kawasaki Y, Noguchi K, Seto H, Suzuki M : Increased pituitary volume in subjects at risk for psychosis and patients with first-episode schizophrenia. Psychiatry Clin. Neurosci 67: 540-548, (2013) 査読有
85. *5 嶋田貴充, 紋川明和, 渡辺健一郎, 窪田 孝, 川崎康弘 : レビー小体型認知症の臨床診断基準を満たしながら MIBG 心筋シンチグラフィーでの集積低下を認めなかった 1 例, 精神 22: 333-340, (2013) 査読有
86. Takahashi T, Nakamura K, Ikeda E, Furuichi A, Kido M, Nakamura Y, Kawasaki Y, Noguchi K, Seto H, Suzuki M : Longitudinal MRI study of the midline brain regions in first-episode schizophrenia. Psychiatry Res 212: 150-153, (2013) 査読有
87. Terai T, Hashimoto R, Nitta Y, Monkawa T, Kawasaki Y, Kagechika K : Effect of "individual placement and support" with psychoeducational approach for schizophrenics. Proceeding of the 7th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine 212-214, (2013) 査読有
- (基礎研究)
88. *13 Luo X, Shui Y, Wang F, Yamamoto R, Kato N : Impaired retention of depression-like behavior in a mouse model of Alzheimer's disease. IBRO Reports (in press) 査読有
89. ◎*14 Wang M, Uchiumi O, Ogiso H, Shui Y, Zou J, Hashizume C, Taniguchi M, Okazaki T, Kato N : Stressful learning paradigm precludes manifestation of cognitive ability in sphingomyelin synthase-2 knockout mice. Behav Brain Res 319: 25-30 (2017) 査読有
90. ◎*17 Yoshitomi Y, Ikeda T, Saito H, Yoshitake Y, Ishigaki Y, Hatta T, Kato N, Yonekura H : JunB regulates angiogenesis and neurovascular parallel alignment in mouse embryonic skin. J Cell Sci 130: 916-926 (2017) 査読有
91. ◎*22 Okuwa T, Sasaki Y, Matsuzaki Y, Himeda T, Yoshino N, Hongo S, Ohara Y, Muraki Y : The epitope sequence of S16, a monoclonal antibody against influenza C virus hemagglutinin-esterase-fusion

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- glycoprotein. Future Virol 12: 93-101 (2017) 査読有
92. ©Tomosugi N, Yamamoto S, Takeuchi M, **Yonekura H**, **Ishigaki Y**, Numata N, Katsuda S, Sakai Y : Effect of collagen tripeptide on atherosclerosis in healthy humans. J Atheroscler Thromb 24:530-538(2017)査読有
93. ©Baek HJ, Lee YM, Kim TH, Kim JY, Park EJ, **Iwabuchi K**, Mishra L, Kim SS : Caspase-3/7-mediated cleavage of β 2-spectrin is required for acetaminophen-induced liver damage. Int J Biol Sci, 12(2): 172-183 (2016) 査読有
94. Yoshimura H, Sugai T, **Kato N**, Tominaga T, Tominaga Y, Hasegawa T, Yao C, Akamatsu T : Interplay between non-NMDA and NMDA receptor activation during oscillatory wave propagation: Analyses of caffeine-induced oscillations in the visual cortex of rats. Neural Netw 79: 141-149 (2016) 査読有
95. Masuoka T, Kudo M, Yoshida J, Ishibashi T, Muramatsu I, **Kato N**, Imaizumi N, Nishio M : Long-term activation of group I metabotropic glutamate receptors increases functional TRPV1-expressing neurons in mouse dorsal root ganglia. Front Cell Neurosci 10: 79-90 (2016) 査読有
96. ©*15 Zou J, Wang M, Uchiumi O, Shui Y, **Ishigaki Y**, Liu X, Tajima N, Akai T, Iizuka H, **Kato N** : Learning impairment by minimal cortical injury in a mouse model of Alzheimer's disease. Brain Res 1637: 56-63 (2016) 査読有
97. ©Ikeda T, Yoshitomi Y, Saito H, Shimasaki T, Yamaya H, Kobata T, **Ishigaki Y**, Tomosugi N, Yoshitake Y, **Yonekura H** : Regulation of soluble Flt-1 (VEGFR-1) production by hnRNP D and protein arginine methylation. Mol Cell Biochem. 413(1-2): 155-164 (2016) 査読有
98. ©Sasaki Y, Yoshino N, Sato S, **Muraki Y** : Analysis of the beta-propiolactone sensitivity and optimization of inactivation methods for human influenza H3N2 virus. J Virol Methods 235: 105-111 (2016) 査読有
99. *24 村木 靖 : 逆遺伝学を利用した C 型インフルエンザウイルスの病原性解析, 岩手医学雑誌, 68(2):53-60 (2016) 査読無
100. ©*18 Arikawa T, Shengjun Liao, Shimada H, Inoue T, Sakata-Haga H, Nakamura T, **Hatta T**, **Shoji H** : Galectin-4 expression is down-regulated in response to autophagy during differentiation of rat trophoblast cells. Scientific Reports 6, Article number, 32248 (2016) 査読有
101. ©*18 八田稔久 : 神経管の発生, 小児の脳神経, 41: 295-302, (2016) 査読有
102. ©*21 八田稔久, 三谷真弓 : 生物試料の透明化:古典から最新技術まで. 医歯電頭技術雑誌, 29: 54-56 (2016) 査読有
103. Higashi K, Yamagishi T, Ueda Y, **Ishigaki Y**, Shimasaki M, Nakamura Y, Oguchi M, Takegami T, Sagawa M, Tonami H : Correlation of HIF-1 α /Hif-2 α expression with FDG uptake in lung adenocarcinoma. Ann Nuc Med, 30:708-715 (2016) 査読有
104. Srivastava SP, Shi S, Kanasaki M, Nagai T, Kitada M, He J, Nakamura Y, **Ishigaki Y**, Kanasaki K, Koya D : Effect of antifibrotic microRNAs crosstalk on the action of N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline in diabetes-related kidney fibrosis. Sci Rep, 6:29884 (2016) 査読有
105. ©Tatsuno T, Nakamura Y, Ma S, Tomosugi N, **Ishigaki Y** : Nonsense-mediated mRNA decay factor Upf2 exists in both the nucleoplasm and the cytoplasm. Mol Med Rep, 14:655-660 (2016) 査読有
106. Masaki Y, Kawabata H, Takai K, Kojima M, Tsukamoto N, **Ishigaki Y**, Kurose N, Ide M, Murakami J, Nara K, Yamamoto H, Ozawa Y, Takahashi H, Miura K, Miyauchi T, Yoshida S, Momoi A, Awano N, Ikushima S, Ohta Y, Furuta (Igarashi) N, Fujimoto S, Kawanami (Iwao) H, Sakai T, Kawanami T, Fujita Y, Fukushima T, Nakamura S, Kinoshita T, Aoki S : Proposed diagnostic criteria, disease severity classification and treatment strategy for TAFRO syndrome, 2015 version. Int J Hematol, 103:686-692 (2016) 査読有
107. Omata Y, Tharasegaran S, Lim YM, Yamasaki Y, **Ishigaki Y**, Tatsuno T, Maruyama M, Tsuda L : Expression of amyloid- β in mouse cochlear hair cells caused early-onset auditory defect against high frequency sound stimulation. Aging, 8:427-440 (2016) 査読有
108. Kiba T, **Ishigaki Y** : Ventromedial hypothalamic lesions down-regulate the expression of Adora1 gene in rat pancreatic islets. Pancreas, 45:e1-2 (2016) 査読有
109. ©Sakasai R, **Iwabuchi K** : The distinctive cellular responses to DNA strand breaks caused by a DNA topoisomerase I poison in conjunction with DNA replication and RNA transcription. Genes Genet Syst 90, 187-194 (2016) 査読有
110. Li Y, Tanaka K, Wang L, **Ishigaki Y**, **Kato N** : Induction of memory deficit in mice with chronic exposure to cerebrospinal fluid from patients with Anti-N-Methyl-D-Aspartate receptor encephalitis. Tohoku J Exp Med 237, 329-338 (2015) 査読有
111. ©*12 Wang F, Zhang Y, Wang L, Sun P, Luo X, **Ishigaki Y**, Sugai T, Yamamoto R, **Kato N** : Improvement of spatial learning by facilitating large-conductance calcium-activated potassium channel with transcranial magnetic stimulation in Alzheimer's disease model mice. Neuropharmacology, 97: 210-219 (2015) 査読有

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

112. ◎*13 Sun P, Zhang Q, Zhang Y, Wang F, Chen R, Yamamoto R, **Kato N** : Homer1a-dependent recovery from depression-like behavior by photic stimulation in mice. *Physiol Behav*, 147: 334-341 (2015) 査読有
113. ◎*13 Shui Y, Wang L, Luo X, Uchiumi O, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N** : Homer1a disruption increases vulnerability to predictable subtle stress normally sub-threshold for behavioral changes. *Brain Res*, 1605: 70-75 (2015) 査読有
114. Tachi Y, Okuda T, Kawahara N, **Kato N**, **Ishigaki Y**, Matsumoto T : Expression of hyaluronidase-4 in a rat spinal cord hemisection model. *Asian Spine J*, 9: 7-13 (2015) 査読有
115. Masuoka T, Nakamura T, Kudo M, Yoshida J, Takaoka Y, **Kato N**, Ishibashi T, Imaizumi N, Nishio M : Biphasic modulation by mGlu5 receptors of TRPV1-mediated intracellular calcium elevation in sensory neurons contributes to heat sensitivity. *Br J Pharmacol*, 172: 1020-1033 (2015) 査読有
116. ◎*13 Sun P, Zhang Q, Zhang Y, Wang F, Wang L, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N** : Fear conditioning suppresses large-conductance calcium-activated potassium channels in lateral amygdala neurons. *Physiol Behav*, 138: 279-284 (2015) 査読有
117. ◎*13 Wang L, Kang H, Li Y, Shui Y, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N** : Cognitive recovery by chronic activation of the large-conductance calcium-activated potassium channel in a mouse model of Alzheimer's disease. *Neuropharmacology*, 92: 8-15 (2015) 査読有
118. ◎*13 Zhang Y, Wang F, Luo X, Wang L, Sun P, Wang M, Jiang Y, Zou J, Uchiumi O, Yamamoto R, Sugai T, Yamamoto K, **Kato N** : Cognitive improvement by photic stimulation in a mouse model of Alzheimer's disease. *Curr Alzheimer Res*, 12: 860-869 (2015) 査読有
119. ◎Ueda S, Ichiseki T, Yoshitomi Y, **Yonekura H**, Ueda Y, Kaneuji A, Matsumoto T : Osteocytic cell necrosis is caused by a combination of glucocorticoid-induced Dickkopf-1 and hypoxia. *Med Mol Morphol*, 48(2):69-75 (2015) 査読有
120. ◎*24 Shimotai Y, Goto T, Matsuzaki Y, **Muraki Y**, Sugawara K, Hongo S : The effect of the cytoplasmic tail of influenza C virus CM2 protein on its biochemical properties and intracellular processing. *Biochem Biophys Reports*, 3: 1-6 (2015) 査読有
121. ◎*20 Nonaka Y, Ogawa T, Yoshida H, **Shoji H**, Nishi N, Kamitori S, Nakamura T : Crystal structure of a *Xenopus laevis* skin proto-type galectin, close to but distinct from galectin-1. *Glycobiology*, 25(7):792-803 (2015) 査読有
122. ◎*19 Tsukada T, Simamura E, Shimada H, Arai T, Higashi N, Akai T, Iizuka H, **Hatta T** : The suppression of maternal-fetal leukemia inhibitory factor signal relay pathway by maternal immune activation impairs brain development in mice. *PLOS ONE*, 10(6) : e0129011, (2015) 査読有
123. ◎*18 Simamura E, Arikawa T, Ikeda T, Shimada H, **Shoji H**, Masuta H, Nakajima Y, Otani H, **Yonekura H**, **Hatta T** : Melanocortins Contribute to Sequential differentiation and enucleation of human erythroblasts via melanocortin receptors 1, 2 and 5. *PLOS ONE*, 10(4) : e0123232, (2015) 査読有
124. Nakata H, Wakayama T, Sonomura T, Honma S, **Hatta T**, Iseki S : Three-dimensional structure of seminiferous tubules in the adult mouse. *J. Anat*, 227(5) : 686-694, (2015) 査読有
125. Zhang J, **Ishigaki Y**, Takegami T : Hepatitis C virus NS3 protein modulates the biological behaviors of malignant hepatocytes by altering the expression of host cell microRNA. *Mol Med Rep*, 12:5109-5115 (2015) 査読有
126. Moriya J, Kobayashi J, HE Q, Uenishi H, Akazawa S, Yamakawa J, **Ishigaki Y** : Induction murine models of Chronic Fatigue Syndrome by Brucella abortus antigen injections:is anemia induced or not?. *BioMed Res Int*, 191489 (2015) 査読有
127. Nakajima A, Masaki Y, Nakamura T, Kawanami T, **Ishigaki Y**, Takegami T, Kawano M, Yamada K, Tsukamoto N, Matsui S, Saeki T, Okazaki K, Kamisawa T, Miyashita T, Yakushijin Y, Fujikawa K, Yamamoto M, Hamano H, Origuchi T, Hirata S, Tsuboi H, Sumida T, Morimoto H, Sato T, Iwao H, Miki M, Sakai T, Fujita Y, Tanaka M, Fukushima T, Okazaki T, Umehara H : Decreased expression of innate immunity-related genes in peripheral blood mononuclear cells from patients with IgG4-related disease. *PLoS ONE* 10(5) : e0126582 (2015) 査読有
128. ◎Yoshida H, **Ishigaki Y**, Takizawa A, Moro K, Kishi Y, Takahashi T, Matsui H : Comparative genomics of the mucoid and nonmucoid strains of *Streptococcus pyogenes*, isolated from the same patient with streptococcal meningitis. *Genome Announc*, 3:e00221-15 (2015) 査読有
129. ◎*25 **Ishigaki Y**, Nakamura Y, Tatsuno T, Ma S, Tomosugi N : Phosphorylation status of human RNA-binding protein 8A and its inhibitory regulation by Magoh. *Exp Biol Med*, 240:438-445 (2015) 査読有
130. ◎*26 中村有香, 辰野貴則, **石垣靖人** : イオン液体を用いた走査型電子顕微鏡観察, 金沢医科大学

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- 雑誌, 40巻 125-130 (2015) 査読有
131. ©Matsui Y, Sunatani Y, Hayashi N, Okino K, Okushi Y, Mukai K, Adachi H, Yamaya H, Iwabuchi K, Yokoyama H : DNA double-strand breaks induced intractable glomerular fibrosis in renal allografts. Clin Exp Nephrol, 20(3): 479-488 (2015) 査読有
 132. Yamamoto R, Hatano N, Sugai T, Kato N : Serotonin induces depolarization in lateral amygdala neurons by activation of TRPC-like current and inhibition of GIRK current depending on 5-HT_{2C} receptor. Neuropharmacology, 82: 49-58 (2014) 査読有
 133. Yoshimura H, Hasumoto M, Sugai T, Segami N, Kato N : Enhancement of oscillatory activity in the endopiriform nucleus of rats raised under abnormal oral conditions. Neurosci Lett, 561: 162-165 (2014) 査読有
 134. ©Matsuzaki Y, Sugawara K, Abiko C, Ikeda T, Aoki Y, Mizuta K, Katsushima N, Katsushima F, Katsushima Y, Itagaki T, Shimotai Y, Hongo S, Muraki Y, Nishimura H : Epidemiological information regarding the periodic epidemics of influenza C virus in Japan (1996-2013) and the seroprevalence of antibodies to different antigenic groups. J Clin Virol, 61: 87-93 (2014) 査読有
 135. ©Zhou M, Osanai K, Kobayashi M, Oikawa T, Nakagawa K, Mizuno S, Muraki Y, Toga H : Adenovector-mediated gene transfer of lysophosphatidylcholine acyltransferase 1 attenuates oleic acid-induced acute lung injury in rats. Crit Care Med, 42: e716-724 (2014) 査読有
 136. Inoue T, Hashimoto R, Matsumoto A, Jahan E, Rafiq AM, Udagawa J, Hatta T, Otani H : In vivo analysis of Arg-Gly-Asp sequence/integrin $\alpha 5 \beta 1$ -mediated signal involvement in embryonic enchondral ossification by exo utero development system. J Bone Miner Res, 29(7):1554- 1563, (2014) 査読有
 137. ©*20 Arikawa T, Simamura E, Shimada H, Nakamura T, Hatta T, Shoji H : Significance of sugar chain recognition by galectins and its involvement in disease-associated glycosylation. Congenital Anomalies, 54(2):77-81 (2014) 査読有
 138. Kiba T, Ishigaki Y : Ventromedial hypothalamic lesions change the expression of cell proliferation-related genes and morphology-related genes in rat pancreatic islets. Islets, 6:1012950, (2014) 査読有
 139. ©Nakamura Y, Ishigaki Y : Immunostaining and time-lapse analysis of vinblastine-induced paracrystal formation in human A549 cells. Oncol Lett, 8:2387-2392 (2014) 査読有
 140. Shimamoto A, Kagawa H, Zensho K, Sera Y, Kazuki Y, Osaki M, Oshimura M, Ishigaki Y, Hamasaki K, Kodama Y, Yuasa S, Fukuda K, Hirashima K, Seimiya H, Koyama H, Shimizu T, Takemoto M, Yokote K, Goto M, Tahara H : Reprogramming suppresses premature senescence phenotypes of Werner syndrome cells and maintains chromosomal stability over long-term culture. PLoS ONE, 9(11) : e112900 (2014) 査読有
 141. ©Zhao X, Nogawa A, Matsunaga T, Takegami T, Nakagawa H, Ishigaki Y : Proteasome inhibitors and knockdown of SMG1 cause accumulation of Upf1 and Upf2 in human cells. Int J Oncol, 44:222-228 (2014) 査読有
 142. ©Ishigaki Y, Nakamura Y, Tatsuno T, Hashimoto M, Iwabuchi K, Tomosugi N : RNA binding protein RBM8A (Y14) and MAGOH localize to centrosome in human A549 cells. Histochem Cell Biol, 141:101-109 (2014) 査読有
 143. Kanasaki K, Shi S, Kanasaki M, He J, Nagai T, Nakamura Y, Ishigaki Y, Kitada M, Srivastava S, Koya D : Linagliptin-mediated DPP-4 inhibition ameliorates kidney fibrosis in streptozotocin-induced diabetic mice by inhibiting endothelial-to-mesenchymal transition in a therapeutic regimen. Diabetes, 63:2120-2131 (2014) 査読有
 144. Nagai T, Kanasaki M, Srivastava SP, Nakamura Y, Ishigaki Y, Kitada M, Shi S, Kanasaki K, Koya D : N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline inhibits diabetes-associated kidney fibrosis and endothelial-mesenchymal transition. BioMed Res Int, 2014:696475 (2014) 査読有
 145. ©Ishigaki Y, Nakamura Y, Tatsuno T : Observation of Localization and Structure of RNA-protein Complexes Using Light and Electron Microscopy. J. Electr. Microsc. Technol. Med. Biol, 28:1-5 (2014) 査読有
 146. ©石垣靖人, 辰野 貴則, 中村 有香 : DNAマイクロアレイによる網羅的な遺伝子発現解析. 金沢医科大学雑誌, 39巻 35-41 (2014) 査読有
 147. ©Guerra B, Iwabuchi K, Issinger OG : Protein kinase CK2 is required for the recruitment of 53BP1 to sites of DNA double-strand break induced by radiomimetic drugs. Cancer Lett, 345(1): 115-123 (2014) 査読有
 148. ©Yoo JS, Takahashi K, Ng CS, Ouda R, Onomoto K, Yoneyama M, Lai JC, Lattmann S, Nagamine Y, Matsui T, Iwabuchi K, Kato H, Fujita T : DHX36 enhances RIG-I signaling by facilitating PKR-mediated antiviral stress granule formation. PLoS Pathog, 10(3): e1004012 (2014) 査読有

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

149. Yoshimura H, Sugai T, Hasegawa T, Yao C, Akamatsu T, **Kato N** : Age-dependent emergence of caffeine-assisted voltage oscillations in the endopiriform nucleus of rats. *Neurosci Res*, 76: 16-21 (2013) 査読有
150. Wang Z-D, Wang L, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N** : Role of the lateral habenula in shaping context-dependent locomotor activity during cognitive tasks. *Neuroreport*, 24: 276-80 (2013) 査読有
151. **Kanda T**, Chen R, Mizuno T, Sakamoto D, Usuda D, Mori M, Takahashi M, **Kato N**, Sumino H : Cardiac BDNF/TrkB signaling can be induced by calorie restriction with improved physical activity in obese mice. *The Internet Journal of Cardiovascular Research*, 8: (2013) 査読有
152. ©Takeuchi A, Yamamoto Y, Munesue S, Harashima A, Watanabe T, **Yonekura H**, Yamamoto H, Tsuchiya H : Low molecular weight heparin suppresses receptor for advanced glycation end products-mediated expression of malignant phenotype in human fibrosarcoma cells. *Cancer Sci*, 104(6):740-749 (2013) 査読有
153. ©Munesue S, Yamamoto Y, Urushihara R, Inomata K, Saito H, Motoyoshi S, Watanabe T, **Yonekura H**, Yamamoto H : Low-molecular weight fractions of Japanese soy sauce act as a RAGE antagonist via inhibition of RAGE trafficking to lipid rafts. *Food Funct*, 4(12):1835-1842 (2013) 査読有
154. ©*24 **Muraki Y** : Role of influenza C virus CM2 protein in virus replication cycle. *J Kanazawa Med Univ*, 38: 73-80 (2013) 査読無
155. ©*24 **Muraki Y**, Okuwa T, Himeda T, Hongo S, Ohara Y : Effect of cysteine mutations in the extracellular domain of CM2 on the influenza C virus replication. *PLoS ONE*, 8(4): e60510 (2013) 査読有
156. ©**Ishigaki Y**, Nakamura Y, Tatsuno T, Hashimoto M, Shimasaki T, **Iwabuchi K**, Tomosugi N : Depletion of RNA-binding protein RBM8A (Y14) causes cell cycle deficiency and apoptosis in human cells. *Exp Biol Med*, 238:889-897 (2013) 査読有
157. Yoshikawa C, Takano F, **Ishigaki Y**, Okada M, Kyo S, Suzuki N, Sugiura K, Koike K : Effect of porcine placental extract on collagen production in human skin fibroblasts in vitro. *Gyn & Obs*, 3:6-9 (2013) 査読有
158. Kitano A, Shimasaki T, Chikano Y, Nakada M, Hirose M, Higashi T, **Ishigaki Y**, Endo Y, Takino T, Sato H, Sai Y, Miyamoto K, Motoo Y, Kawakami K, Minamoto T : Aberrant glycogen synthase kinase 3b is involved in pancreatic cancer cell invasion and resistance to therapy. *PLoS ONE*, 8(2) : e55289 (2013) 査読有
159. Takeda K, Takata T, Kawai Y, **Ishigaki Y**, Kajinami K : Chk1-mediated phosphorylation of RALT at serine 250 enhances its stability by stimulating its interaction with 14-3-3. *Genes to Cells*, 18:369-386 (2013) 査読有
160. Maru S, **Ishigaki Y**, Shinohara N, Takata T, Tomosugi N, Nonomura K : Inhibition of mTORC2 but not mTORC1 upregulates E-cadherin expression and inhibits cell motility by blocking HIF2 alpha expression in human cell carcinoma. *J Urol*, 189:1921-1929 (2013) 査読有
161. ©Kurosawa A, Saito S, So S, Hashimoto M, **Iwabuchi K**, Watabe H, Adachi N : DNA Ligase IV and Artemis Act Cooperatively to Suppress Homologous Recombination in Human Cells: Implications for DNA Double-Strand Break Repair. *PLoS One*, 8(8) : e72253 (2013) 査読有
162. ©Doai M, Watanabe N, Takahashi T, Taniguchi M, Tonami H, **Iwabuchi K**, Kayano D, Fukuoka M, Kinuya S : Sensitive immunodetection of radiotoxicity after iodine-131 therapy for thyroid cancer using γ -H2AX foci of DNA damage in lymphocytes. *Ann Nucl Med*, 27: 233-238 (2013) 査読有
163. Nakajima H, Koizumi K, Tanaka T, **Ishigaki Y**, Yoshitake Y, **Yonekura H**, Sakuma T, Fukushima T, Umehara H, Ueno S, Minamoto T, Motoo Y : Loss of HITS (FAM107B) expression in cancers of multiple organs: tissue microarray analysis. *Int J Oncol*, 41(4), 1347-1357 (2012) 査読有
164. Yamada M, Udagawa J, Hashimoto R, Matsumoto A, **Hatta T**, Otani H : Interkinetic nuclear migration during early development of midgut and ureteric epithelia. *Anat Sci Int*, 88:31-37 (2012) 査読有
165. ©*20 Arikawa T, Simamura E, Shimada H, Nishi N, Tatsuno T, **Ishigaki Y**, Tomosugi N, Yamashiro C, Hata T, Takegami T, Mogami H, Yamaguchi K, Nakamura T, Otani H, **Hatta T**, **Shoji H** : Expression pattern of Galectin 4 in rat placentation. *Placenta*, 33: 885-887 (2012) 査読有
166. Takata T, **Ishigaki Y**, Shimasaki T, Tsuchida H, Motoo Y, Hayashi A, Tomosugi T : Characterization of proteins secreted by pancreatic cancer cells with anticancer drug treatment in vitro. *Oncol Rep*, 28:1968-1976 (2012) 査読有
167. ©Yoshida J, **Iwabuchi K**, Matsui T, Ishibashi T, Masuoka T, Nishio M : Knockdown of stromal interaction molecule 1 (STIM1) suppresses store-operated calcium entry, cell proliferation and tumorigenicity in human epidermoid carcinoma A431 cells. *Biochem. Pharmacol*, 84:1592-1603 (2012) 査読有

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

<図書>

1. ハリソン内科学第5版, 三輪高喜, メディカル・サイエンス・インターナショナル社, 2832 頁 (2017)
2. 耳鼻咽喉科インベーション 再診の治療・診断・疾患概念, 三輪高喜, 中山書店, 276 頁 (2016)
3. 睡眠からみた認知症診療ハンドブッカー 早期診断と多角的アプローチ, 三輪高喜, 全日本病院出版会, 145 頁 (2016)
4. 耳鼻咽喉科漢方薬処方ガイド, 三輪高喜, 中山書店, 234 頁 (2015)
5. 改訂2版 カラーイラストで学ぶ 集中講義 薬理学(渡邊康裕)、臨床薬理 高齢者の薬物動態の特徴を例をあげて説明せよ、入谷 敦, 森本茂人、メジカルビュー社、176-179 (2015)
6. レジデント(森本茂人)、高齢者の緊急病態～知っておくべき知識と対応～ 6. 高齢者の血管緊急症、入谷敦, 森本茂人、医学出版、49-60 (2015)
7. 今日の治療指針 精神疾患 統合失調症圏障害, 川崎康弘, 医学書院, 962 頁 (2015)
8. 精神疾患の脳画像ケースカンファレンス(福田正人監修), 第1部 第1章 構造脳画像(CT), 川崎康弘, 中山書店, 348 頁 (2014)
9. 精神保健学(第2版) 第3章 緩和ケアと精神保健, 川崎康弘, へるす出版, 334 頁 (2014)
10. 国試カンファレンス あなむね 彪の巻 精神科, 川崎康弘, 医学評論社 87-108 (2014)
11. すぐに使える 高齢者総合診療ノート/編著:大庭建三(大洗海岸コアクリニック院長)、第3章 高齢者に多い疾患 9 救急 ①熱中症 入谷 敦, 森田卓朗, 森本茂人, 日本医事新報社、393-397 (2014)
12. 睡眠障害知る診る治す, 三輪高喜他, メディカルビュー社, 203 頁 (2014)
13. Room-Temperature Ionic Liquid-Bases SEM/EDX Techniques for Biological Specimens and in situ Electrode Reaction Observation. 373-389, Molten Salts Chemistry and Technology(Marcelle Gaune-Escard, Geir Martin Haarberg), Tsuda T, Mochizuki E, Kishida S, Nemoto N, Ishigaki Y, Kuwabata S, Willy (2014)
14. カラー版 老年医学 系統講義テキスト初版第1刷/財)日本老年医学会編集、第4章 老年症候群 ②誤嚥、入谷 敦, 森本茂人, 西村書店, 96-97 (2013)
15. カラー版 老年医学 系統講義テキスト初版第1刷/財)日本老年医学会編集、第5章 臓器の加齢変化と老年疾患の発症 ⑨感覚器系、入谷 敦, 佐々木洋, 三輪高喜, 森本茂人, 西村書店, 152-155 (2013)
16. 内科学書改訂第8版, 三輪高喜他, 中山書店, 419 頁 (2013)
17. 老年医学系統講義テキスト, 三輪高喜他, 西村書店 (2013)
18. カラー版 ラーセン人体発生学第4版(Gary C.Schoenwolf、Steven B.Bleyle、Phillip R.Brauer、Phillipa H.Francis-West (仲村春和監訳))—第7章 皮膚と皮膚に由来する構造物の発生—仲村春和, 大谷 浩, 八田稔久, 勝部憲一, 福井義浩, 青山裕彦, 福田公子, 荒木正介, 舟橋淳一, 田村浩治, 米井小百合, 西村書店 (2013)
19. 図説 カラダ大辞典 心臓と血管の病気/金沢医科大学図説カラダ大辞典編集委員会編, 第2章 病気を理解するための基礎知識 解剖生理④ 血圧調節 大黒正志, 森本茂人, 金沢医科大学出版局, 48-50 (2012)
20. 図説 カラダ大辞典 心臓と血管の病気/金沢医科大学図説カラダ大辞典編集委員会編, 第5章 血圧異常 低血圧・調節異常① 低血圧 大黒正志, 森本茂人, 金沢医科大学出版局, 257-259 (2012)
21. ファーマナビゲーター 活性型ビタミンD3製剤編/太田博明, 松本俊夫編集, Chapter1 ビタミン D と骨カルシウム代謝 ビタミン D の骨外作用～③皮膚～ 大黒正志, 森本茂人, メディカルビュー社, 78-83 (2012)
22. 新臨床栄養学—第2版—馬場忠雄, 山城雄一郎編集, II.臨床編 C.疾患と栄養 8.骨粗鬆症 大黒正志, 森本茂人, 医学書院, 412-421 (2012)
23. ビジュアル脳神経外科, 三輪高喜他, メディカルビュー社, 250 頁 (2012)

<学会発表>

(臨床研究)

1. *5 Miwa T: Treatment of post-infectious olfactory dysfunction. International Congress of ORL-HNS, (Seoul, 2017 年 4 月)
2. *5 能田拓也, 志賀英明, 張田雅之, 山田健太郎, 三輪高喜, 二宮英明: 当帰芍薬散の嗅神経再生効果の検討, 第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, (旭川, 2017 年 4 月)
3. *5 山田健太郎, 能田拓也, 志賀英明, 三輪高喜, 二宮英明: マウス嗅上皮傷害後の再生における性差に関する研究, 第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, (旭川, 2017 年 4 月)
4. 熊井理美, 平場知子, 志賀英明, 八尾 亨, 三輪高喜: 好酸球性副鼻腔炎手術症例における嗅覚機能の長期的改善度, 第35回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, (旭川, 2017 年 4 月)
5. *7 山崎愛大, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人: 超高齢者における脳

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

梗塞症例の特徴, 第 96 回中部地区老年医学談話会, (名古屋, 2016 年 2 月)

6. ***3 Kanda T, Mori M:** Chronic voluntary movement induce both of BDNF and RCAN1 in hippocampus associated with improved cognitive and depressive function of obese APOE^{-/-} mice, Keystone Conference, (Banff, 2016 年 2 月)
7. Iwai K, Iritani O, Okuro M, **Morimoto S:** Up-regulated Nucleostemin Induces Carcinogenesis Related Genes and Enhances Proliferation of the Smooth Muscle Cells in Atherosclerosis, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, (仙台, 2016 年 3 月)
8. Iwai K, Iritani O, Okuro M, **Morimoto S:** Down-regulation of Importin α 1 and Nucleoporin Tpr in Senescence and Atherosclerosis Enhances Proliferation of Smooth Muscle Cell, The 80th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, (仙台, 2016 年 3 月)
9. ***7 森田卓朗, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 大学病院における高齢者救急の現状と特徴, 第 113 回日本内科学会総会・講演会, (東京, 2016 年 4 月)
10. 入谷 敦, 渡邊啓介, 中島久美絵, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人:** 高齢者 Sepsis 症例に対する免疫グロブリン製剤 (IVIG) 療法の意義, 第 113 回日本内科学会総会・講演会, (東京, 2016 年 4 月)
11. ***7 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 高齢者における脳出血と血圧との関係, 第 113 回日本内科学会総会・講演会, (東京, 2016 年 4 月)
12. 比嘉大輔, 中田いちこ, 高橋喜統, 入谷 敦, **森本茂人**, 丹羽 修: 薬剤師の視点で見る 高齢者心不全のチーム医療, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
13. ***7 渡邊啓介, 森本茂人, 岩井邦充, 大黒正志, 入谷 敦, 矢野 浩, 森田卓朗, 奥野太寿生, 姫野太郎, 中島久美絵:** 当院における高齢者における脳梗塞症例の特徴, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
14. 姫野太郎, 片岡 譲, 中島久美絵, 奥野太寿生, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人:** 高齢者の脳梗塞例における入院時血圧と急性期肺炎との関連, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
15. ***7 奥野太寿生, 中島久美絵, 姫野太郎, 矢野 浩, 森田卓朗, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 地域在住高齢者における要介護認定種別と生活習慣病の関係, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
16. ***7 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 高齢者における脳出血と血圧の関係, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
17. ***7 東川俊寛, 森本茂人, 岩井邦充, 大黒正志, 入谷 敦, 矢野 浩, 土屋 博, 石神慶一郎:** 降圧薬治療中地域在住高齢者の糖尿病と血圧・生活機能との関係, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
18. 岩井邦充, 奥野太寿生, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**, 辰野貴則, 中村有香, **石垣靖人:** 血管平滑筋細胞における Nucleostemin は癌関連遺伝子の発現を惹起し動脈硬化巢形成に積極的に関与する, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
19. 入谷 敦, 中島久美絵, 姫野太郎, 奥野太寿生, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人:** 高齢者における抗凝固療法の安全性について～認知機能を考慮して～, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
20. ***7 森田卓朗, 中島久美絵, 渡邊啓介, 姫野太郎, 奥野太寿生, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 金沢医科大学高齢医学科における救急医療の特徴, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
21. 大黒正志, 中島久美絵, 森田卓朗, 奥野太寿生, 姫野太郎, 矢野 浩, 入谷 敦, 岩井邦充, **森本茂人:** 高齢者脳出血発症例における入院時血圧と肺炎合併との関係, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
22. ***7 矢野 浩, 渡邊啓介, 中島久美絵, 姫野太郎, 奥野太寿生, 森田卓朗, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, 森本茂人:** 降圧薬治療中の地域在住糖尿病・非糖尿病高齢者における血圧と生活機能との関係, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
23. 岩井邦充, 山崎愛大, 渡邊啓介, 姫野太郎, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**, 辰野貴則, 中村有香, **石垣靖人:** 血管平滑筋細胞の老化過程における核移行担体 Importin α 1 発現抑制の意義について, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

24. 入谷 敦, 中島久美絵, 姫野太郎, 奥野太寿生, 矢野 浩, 森田卓朗, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者 Sepsis 症例に対する免疫グロブリン製剤 (IVIG) 療法, 第 58 回日本老年医学会学術集会, (金沢, 2016 年 6 月)
25. 森田卓朗, 岩井邦充, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**: 手術時期の判断が予後を左右した感染性心内膜炎の 2 症例, 第 27 回日本老年医学会北陸地方会, (金沢, 2016 年 10 月)
26. 五十嵐裕太, 岩井邦充, 奥野太寿生, **森本茂人**, 白神俊祐, 長山成美, 松井 真: 急性の重度認知機能障害をきたしたが、カテーテル治療により改善させえた硬膜動静脈瘻症例, 第 27 回日本老年医学会北陸地方会, (金沢, 2016 年 10 月)
27. Ohi K, Shimada T, Nitta Y, Kihara H, Okubo H, Uehara T, **Kawasaki Y**: Specific Gene Expression Patterns of 108 Schizophrenia-Associated Loci in Cortex, 第 38 回日本生物学的精神医学会・第 59 回日本神経化学会大会合同年会, (福岡, 2016 年 9 月)
28. *2 Matsuda Y, Hashimoto R, Takemoto S, **Ishizaki M**, **Kawasaki Y**: A Dementia Screening Investigation for Inhabitants of Rural Areas in Japan, The 2016 Alzheimer's Disease Congress, (London, 2016 年 6 月)
29. *3 嶋田貴充, 大井一高, 康山俊樹, 木原弘晶, 新田祐輔, 大久保裕章, 澤井和幸, 大嶋一彰, 上原隆, **川崎康弘**: 統合失調症の 5 因子モデルの性格特性-メタ解析研究-, 第 112 回日本精神神経学会, (幕張, 2016 年 6 月)
30. *4 大井一高, 松田幸久, 嶋田貴充, 木原弘晶, 新田祐輔, 大久保裕章, 上原隆, **川崎康弘**: 統合失調症における上側頭回の構造変化 : サブ・リージョン変化, 第 112 回日本本精神神経学会, (幕張, 2016 年 6 月)
31. *5 木原弘晶, 梁祐輔, 上田菜保子, 武内美奈, 大井一高, 新田祐輔, 嶋田貴充, 上原隆, **川崎康弘**: 精神神経疾患における嗅覚障害, 第 112 回日本精神神経学会, (幕張, 2016 年 6 月)
32. *1 松田幸久, **石崎昌夫**, 橋本玲子, 田中浩二, **川崎康弘**: 認知症との関わり・知識の有無と認知症啓発活動による意識変容, 第 35 回日本社会精神医学会, (岡山, 2016 年 1 月)
33. **Kawasaki Y**, Hashimoto R, Takemoto S, Shimada T, Kihara H, Ohi K, Uehara T, Matsuda Y, Tunoda M: Establishment of a clinical service for young people at risk of developing psychosis in Uchinada Japan. IEPA10, (Milan, 2016 年 10 月)
34. *3 新田祐輔, 中井有里, **川崎康弘**: 金沢医科大学病院精神科リエゾンチームが介入した 2015 年度のせん妄についての報告, 第 29 回日本総合病院精神科医会, (東京, 2016 年 11 月)
35. *4 嶋田貴充, 澤井和幸, 康山俊樹, 新田祐輔, 大井一高, 上原隆, **川崎康弘**: パーキンソン病の経過中に顕著な性欲亢進を認めたドーパミン調節異常症候群の 1 例, 第 190 回北陸精神神経学会, (富山, 2016 年 7 月)
36. *4 大久保裕章, 長山成美, 渡辺健一郎, 上原隆, **川崎康弘**: 診断に難渋した若年性認知症の一例, 第 30 回 21 世紀の認知症を考える会, (金沢, 2016 年 5 月)
37. *6 志賀英明, 瀧 淳一, 絹谷清剛, 古川 亘, **三輪高喜**: 嗅覚障害の診療最前線, 第 117 回日本耳鼻咽喉科学会, (名古屋, 2016 年 5 月)
38. *5 **Miwa T**: TOPICAL THERAPIES, 26th Congress of the european rhinologic society, (Stockholm, 2016 年 7 月)
39. *5 Kumai M, **Miwa T**: Managing olfactory los, 26th Congress of the european rhinologic society, (Stockholm, 2016 年 7 月)
40. *5 **三輪高喜**: 嗅覚診療における漢方治療の役割, 第 15 回山形大学漢方実践講座, (山形, 2016 年 9 月)
41. *6 **三輪高喜**: 嗅覚・味覚障害, 第 78 回耳鼻咽喉科臨床学会, (鹿児島, 2016 年 6 月)
42. *5 志賀英明, 能田拓也, 山田健太郎, 張田雅之, 中村有加里, 平場友子, 熊井理美, 山本純平, **三輪高喜**: 嗅覚障害と漢方治療, 第 32 回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, (東京, 2016 年 10 月)
43. *5 山田健太郎, 張田雅之, 能田拓也, 志賀英明, **三輪高喜**: マウス嗅上皮神経障害後の再生における性差に関する研究, 第 55 回日本鼻科学会, (宇都宮, 2016 年 10 月)
44. *5 Harita M, Shiga H, Hiraba T, Nakamura Y, Noda T, Yamada K, Ninomiya H, **Miwa T**: Observation of odor behavior by the new simple device in mice, 26th Congress of the european rhinologic society, (Stockholm, 2016 年 7 月)
45. *5 Ymada K, Shiga H, Ninomiya H, Ymamoto J, Noda T, Harita M, Nakamura Y, Hiraba T, **Miwa T**: An investigation into the differences in damage of the olfactory epithelium between female and male mice after administration of methimazole, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
46. *5 Harita M, Shiga H, Hiraba H, Nakamura Y, Noda T, Yamada K, Ninomiya H, **Miwa T**: Behavioral

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- assessment of mouse olfaction using a new experimental device, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
47. *5 Shiga H, **Miwa T**: Clinical value of olfactory molecular imaging, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
 48. *5 Noda T, Shiga H, Ninomiya H, Nakamura Y, Hiraba H, Harita M, Yamada K, Yamamoto J, **Miwa T**: Effect of Kampo medicine Tokishakuyakusan on olfactory epithelium in olfactory impaired mice, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
 49. *5 Nakamura Y, Shiga H, Ninomiya H, Noda T, Yamada K, Harita M, Hiraba T, Yamamoto J, **Miwa T**: Direct transport of insulin to the olfactory bulb of mice by nasal administration, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
 50. *5 Hiraba T, Nakamura Y, Noda T, Yamada K, Yamamoto J, Teraguchi K, Shiga H, **Miwa T**: The relationship between olfactory dysfunction and the number of eosinophils in nasal polyp tissues in surgical cases, 17th International symposium on olfaction and taste, (横浜, 2016 年 6 月)
 51. *5 張田雅之, 志賀英明, 二宮英明, 能田拓也, 山田健太郎, **三輪高喜**: 新たな装置を用いた嗅覚行動実験, 第 55 回日本鼻科学会, (宇都宮, 2016 年 10 月)
 52. *5 能田拓也, 志賀英明, 張田雅之, 山田健太郎, **三輪高喜**, 二宮英明: 当帰芍薬散を用いた嗅上皮障害モデルにおける嗅神経再生の観察, 第 55 回日本鼻科学会, (宇都宮, 2016 年 10 月)
 53. *5 平場友子, 中村有加里, 張田雅之, 能田拓也, 山田健太郎, 稲垣信吾, 寺口奏子, 志賀英明, **三輪高喜**: 慢性副鼻腔炎手術における鼻茸組織中好酸球数と嗅覚障害との関係, 第 34 回日本免疫アレルギー学会, (鳥羽, 2016 年 2 月)
 54. *5 **三輪高喜**: 嗅覚障害の診療最前線, 第 27 回北陸耳鼻咽喉科漢方研究会, (金沢, 2016 年 11 月)
 55. *5 **三輪高喜**: 嗅覚障害の診療 Up to Date, 第 17 回富山県マレウスの会, (富山, 2016 年 12 月)
 56. *5 **Miwa T**: Recent advance of diagnosis and treatment of olfactory disorders, The 101st annual meeting of Taiwan Otolaryngological Society (Taoyuan, Taiwan, 2016 年 11 月)
 57. *5 張田雅之, 志賀英明, 能田拓也, 山田健太郎, **三輪高喜**: 新たな嗅覚行動測定装置における刺激嗅素, 第 34 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会, (大阪, 2016 年 8 月)
 58. *5 能田拓也, 志賀英明, 山田健太郎, 張田雅之, 二宮英明, **三輪高喜**: 当帰芍薬散による嗅細胞再生作用, 第 34 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会, (大阪, 2016 年 8 月)
 59. *7 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における要介護認定種別と生活習慣病の関係, 第 95 回中部地区老年医学談話会, (名古屋, 2015 年 2 月)
 60. 森田卓朗, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 当院における高齢者菌血症例の解析と至適治療について, 第 95 回中部地区老年医学談話会, (名古屋, 2015 年 2 月)
 61. 入谷 敦, 姫野太郎, 奥野太寿生, 森田卓朗, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者の認知機能を考慮した抗凝固療法の治療戦略, 第 112 回日本内科学会総会・講演会, (京都, 2015 年 4 月)
 62. 入谷 敦, 奥野太寿生, 森田卓朗, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者における尿路感染症・Urosepsis の臨床的特徴, 第 112 回日本内科学会総会・講演会, (京都, 2015 年 4 月)
 63. Iwai K, Iritani O, Okuro M, **Morimoto S**: Nucleostemin and Nucleophosmin Express Accompanied by Significant Up-regulation of Telomere Reverse Transcriptase in the Arteriosclerotic Lesions, The 79th annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, (大阪, 2015 年 4 月)
 64. 奥野太寿生, 入谷 敦, 森田卓朗, 姫野太郎, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者における尿路感染症・Urosepsis の臨床的特徴, 第 57 回日本老年医学会学術集会, (横浜, 2015 年 6 月)
 65. 入谷 敦, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者認知症例における新規抗凝固薬を用いた治療戦略, 第 57 回日本老年医学会学術集会, (横浜, 2015 年 6 月)
 66. 岩井邦充, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**: 血管構成細胞における核-細胞質間輸送の加齢変化の検討, 第 57 回日本老年医学会学術集会, (横浜, 2015 年 6 月)
 67. 大黒正志, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 岩井邦充, **森本茂人**: H3 受容体ノックアウトマウスにおけるヒスタミン H3 受容体拮抗薬の覚醒促進効果, 金沢医科大学医学会 第 41 回総会・第 51 回学術集会, (内灘, 2015 年 7 月)
 68. 岩井邦充, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**: 平滑筋細胞の動脈組織内における stem 性について:Nucleostemin の発現に注目して, 金沢医科大学医学会 第 41 回総会・第 51 回学術集会, (内灘, 2015 年 7 月)
 69. *7 入谷 敦, 中島久美絵, 渡邊啓介, 姫野太郎, 奥野太寿生, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- 邦充, **森本茂人**: 高齢者フレイルと高血圧, 第 38 回日本高血圧学会総会, (松山, 2015 年 10 月)
70. 入谷 敦, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 森田卓朗, **森本茂人**: 認知症症例に抗凝固療法は不要か?, 第 22 回日本未病システム学会学術総会, (札幌, 2015 年 10 月)
71. ***7** 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 森田卓朗, 入谷 敦, **森本茂人**: 後期高齢者における脳出血と血圧との関係, 第 22 回日本未病システム学会学術総会, (札幌, 2015 年 10 月)
72. 森田卓朗, 中島久美絵, 渡邊啓介, 奥野太寿生, 姫野太郎, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 治療に難渋した感染性心内膜炎の 1 例, 第 22 回日本未病システム学会学術総会, (札幌, 2015 年 10 月)
73. 渡邊啓介, 中島久美絵, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 超高齢者における脳梗塞症例の特徴, 第 22 回日本未病システム学会学術総会, (札幌, 2015 年 10 月)
74. 木田麻理奈, 中島久美絵, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 土谷武嗣, 北山道彦: 急性冠症候群が疑われたが, たこつぼ型心筋症と判明した超高齢者急性心不全例, 第 26 回日本老年医学会北陸地方会, (富山, 2015 年 10 月)
75. 奥野太寿生, 中島久美絵, 渡邊啓介, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 抗真菌薬投与によっても B-D グルカン を正常化させることができなかった超高齢者例, 第 26 回日本老年医学会北陸地方会, (富山, 2015 年 10 月)
76. 嶋田貴充, 大嶋一彰, 上原 隆, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 成人発症 Still 病の疾患活動期に精神症状を呈した 1 例, 第 187 回北陸精神神経学会, (内灘, 2015 年 1 月)
77. 大嶋一彰, 澤井和幸, 嶋田貴充, 上原 隆, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 統合失調症の経過中に Wernicke 脳症をきたした 1 例, 第 187 回北陸精神神経学会, (内灘, 2015 年 1 月)
78. Nagayama Y, Fukutsuka A, Ikuno K, Kaneda R, **Kawasaki Y**, Kitamura M, Minabe Y, Nagasawa T, Nakade H, Oe M: Relationship between coercive measures and nursing interventions in university hospital psychiatric wards in Japan, 17th Annual Conference of the International Society of Psychiatric-Mental Health Nurses, (Seattle, 2015 年 3 月)
79. ***2** 松田幸久, **石崎昌夫**, 橋本玲子, 竹本早知子, **川崎康弘**: 富山県氷見市のへき地居住者に対する認知症スクリーニング調査: 2 年間の活動を通して, 第 34 回日本社会精神医学会, (富山, 2015 年 3 月)
80. ***3** 松田幸久, 渡辺健一郎, 木原弘晶, **川崎康弘**: うつ病・躁うつ病における NIRS データの時空間特性を活用した機械的鑑別補助法の作成, 電子情報通信学会研究会, (那覇, 2015 年 5 月)
81. ***4** Matsuda Y, Kihara H, Watanabe K, Hashimoto R, Takemoto S, **Kawasaki Y**: Support vector machine classification for patients with major depressive disorder and bipolar disorder using near-infrared spectroscopy, 12th World Congress of Biological Psychiatry, (Athens, 2015 年 6 月)
82. 木原弘晶, 澤井和幸, 大久保裕章, 新田佑輔, 上原 隆, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 当帰芍薬散が有効だった月経前症候群を伴う統合失調症の 2 例, 第 188 回北陸精神神経学会, (福井, 2015 年 7 月)
83. 大嶋一彰, 嶋田貴充, 澤井和幸, 新田佑輔, 上原 隆, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 水頭症を合併した重症うつ病に対し電気けいれん療法が奏功した 1 例, 第 188 回北陸精神神経学会, (福井, 2015 年 7 月)
84. 嶋田貴充, 康山俊樹, 上原 隆, **川崎康弘**: fMRI を用いて解離性運動障害における脳賦活反応を検討した 1 例, 第 76 回日本心身医学会中部地方会, (内灘, 2015 年 10 月)
85. ***3** 新田佑輔, 中井有里, 橋本玲子, 渡辺健一郎, 上原 隆, **川崎康弘**: 金沢医科大学病院における精神科リエゾンチームの設置に向けての準備, 第 28 回日本総合病院精神医学会総会, (徳島, 2015 年 11 月)
86. ***4** Matsuda Y, **Kawasaki Y**, Takahashi T, Takayanagi Y, Suzuki M: Increased local gyrification and associations with severity of clinical symptoms in schizophrenia, 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク平成 27 年度冬のシンポジウム, (東京, 2015 年 12 月)
87. ***5** 能田拓也, 張田雅之, 山田健太郎, 志賀英明, **三輪高喜**: 嗅神経障害モデルマウスにおける当帰芍薬散の効果に関する研究, 第 33 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, (東京, 2015 年 2 月)
88. ***6** **Miwa T**: Change in olfactory function in the elderly and anti-aging, 17th Asian Research Symposium in Rhinology, (Beijin, 2015 年 4 月)
89. ***5** Shiga H, Taki J, Okuda K, Watanabe N, Tonami T, Furukawa M, Kinuya S, **Miwa T**: Prognostic value of olfactory nerve assessment with olfacto-scintigraphy in patients with olfactory disorders, The 37th annual meeting of the Association for Chemoreception Sciences, (Bonita Springs, 2015 年 4 月)
90. ***5** **Miwa T**: Treatment of patients with olfactory dysfunction due to chronic rhinosinusitis, 16th World Congress of Rhinology, (Sao Paul, Brazil, 2015 年 4 月)
91. ***5** 張田雅之, 寺口奏子, 宮澤 徹, 志賀英明, 鈴鹿有子, **三輪高喜**: 先天性嗅覚脱失症例の検討, 第 10 回日本小児耳鼻咽喉科学会, (長野, 2015 年 5 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

92. *5 寺口奏子, 張田雅之, 能田拓也, 山田健太郎, 山本純平, 志賀英明, 三輪高喜: 慢性副鼻腔炎における嗅覚障害の治療成績—統報—, 第 116 回日本耳鼻咽喉科学会, (東京, 2015 年 5 月)
93. *5 志賀英明, 瀧 淳一, 絹谷正剛, 古川 亙, 三輪高喜: 嗅覚障害の予後と末梢嗅神経障害の評価, 第 116 回日本耳鼻咽喉科学会, (東京, 2015 年 5 月)
94. *6 三輪高喜: 感覚器の老化と抗加齢医学 嗅覚, 第 116 回日本耳鼻咽喉科学会, (東京, 2015 年 5 月)
95. 三輪高喜: 診療ガイドライン作成における漢方の取り扱いについて, 第 66 回日本東洋医学会, (富山, 2015 年 6 月)
96. *5 三輪高喜: 嗅覚障害の診断と治療—最近の話題—, 日本耳鼻咽喉科学会福井県地方部会, (福井, 2015 年 6 月)
97. *5 平場友子, 中村有加里, 山本純平, 寺口奏子, 宮澤 徹, 志賀英明, 鈴鹿有子, 三輪高喜: 外傷性嗅覚・味覚同時障害の一例, 第 63 回中部地方部会連合会, (松本, 2015 年 7 月)
98. *5 三輪高喜: においの科学, 第 16 回旭川めまい塾講演会ならびに第 74 回北海道耳鼻咽喉科懇話会, (旭川, 2015 年 7 月)
99. *6 三輪高喜: 嗅覚障害と認知症, 睡眠と認知症ワークショップ, (京都, 2015 年 8 月)
100. *5 能田拓也, 志賀英明, 張田雅之, 山田健太郎, 三輪高喜, 二宮英明: 当帰芍薬散による嗅細胞再生の観察, 第 33 回耳鼻咽喉科ニューロサイエンス研究会, (大阪, 2015 年 8 月)
101. *5 山本純平, 寺口奏子, 宮澤 徹, 志賀英明, 三輪高喜: 外傷性味覚障害の症例検討, 第 28 回日本口腔・咽頭科学会, (大阪, 2015 年 9 月)
102. *5 三輪高喜: 味覚障害の診断と治療, 第 28 回日本口腔・咽頭科学会, (大阪, 2015 年 9 月)
103. *5 山本純平, 平場友子, 中村有加里, 寺口奏子, 宮澤 徹, 志賀英明, 鈴鹿有子, 三輪高喜: 外傷性味覚障害の症例検討, 日本味と匂学会第 49 回大会, (岐阜, 2015 年 9 月)
104. *5 志賀英明, 三輪高喜: 嗅覚障害への神経画像学的アプローチ, 日本味と匂学会第 49 回大会, (岐阜, 2015 年 9 月)
105. *5 中村久子, 西田千恵, 山田浩久, 世戸弘美, 三輪高喜, 飯沼由嗣: 当院における嗅覚検査の問題点, 日本臨床検査技師会中部圏支部平成 27 年度医学検査学会(第 54 回), (静岡, 2015 年 9 月)
106. *5 能田拓也, 志賀英明, 張田雅之, 山田健太郎, 三輪高喜, 二宮英明: 当帰芍薬散による嗅細胞再生の実験的観察, 第 54 回日本鼻科学会, (広島, 2015 年 10 月)
107. *5 三輪高喜: 嗅覚検査, 第 54 回日本鼻科学会, (広島, 2015 年 10 月)
108. *5 志賀英明, 瀧 淳一, 絹谷清剛, 古川 亙, 三輪高喜: 嗅覚障害における嗅神経再生と嗅球体積の検討, 第 54 回日本鼻科学会, (広島, 2015 年 10 月)
109. *5 三輪高喜: 嗅覚障害の診断と治療—最近の話題—, 福岡県耳鼻咽喉科専門医会(福耳会), (福岡, 2015 年 10 月)
110. *5 能田拓也, 志賀英明, 張田雅之, 山田健太郎, 二宮英明, 三輪高喜: 漢方製剤による嗅細胞再生の実験的観察, 第 31 回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, (東京, 2015 年 10 月)
111. *5 三輪高喜: においの科学, 平成 27 年度菊友会学術講演会, (東京, 2015 年 11 月)
112. *2 中島素子, 森河裕子, 櫻井 勝, 長澤晋也, 石崎昌夫, 城戸照彦, 成瀬優知, 諏訪園 靖, 能川和浩, 中川秀昭: 労働集団における睡眠状況と血圧変化に関する縦断的検討, 第 74 回日本公衆衛生学会, (長崎, 2015 年 11 月)
113. *6 Miwa T: Olfactory impairment in elderly, 13th Japan-Taiwan Conference on Otolaryngology-Head and Neck Surgery, (東京, 2015 年 12 月)
114. 三軒龍昌, 神田享勉, 村中絵美里: リウマチ性多発筋痛症の 1 例と当院での症例の検討, 第 224 回日本内科学会北陸地方会 (射水, 2014 年 9 月)
115. *2 松田幸久, 竹本早知子, 神田享勉, 石崎昌夫, 橋本玲子, 川崎康弘: 認知症の発症初期段階における心理・行動様式とネガティブ気分の関係, 金沢医科大学医学会, (内灘, 2014 年 7 月)
116. 大久保裕章, 木原弘晶, 渡辺健一郎, 川崎康弘: 較的長期にわたり認知機能が保たれた DLB の一例, 北陸精神神経学会, (内灘, 2014 年 7 月)
117. 大嶋一彰, 莊 将也, 川崎康弘: 炭酸リチウム服用に伴いせん妄を呈した双極性障害の 2 例, 北陸精神

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- 神経学会, (内灘, 2014 年 7 月)
118. **森本茂人**: 話し相手ボランティア フォローアップ研修プログラム, 認知症を理解して話し相手ボランティア活動に役立てよう, (内灘町, 2014 年 6 月)
119. *5 入谷 敦, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 認知症治療戦略～BPSD の改善を見据えて～, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
120. 本多幸江, 入谷 敦, **森本茂人**: 急性期治療目的で入院した高齢者への鎮静注射の実態, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
121. *7 入谷 敦, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 矢野 浩, 大黒正志, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者の予後からみた適正血圧, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
122. 大黒正志, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 東川俊寛, 矢野 浩, 渥美三貴子, 入谷 敦, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者脳出血症例における入院時血圧値、糖尿病と急性期肺炎発症との関係, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
123. *7 森田卓朗, 入谷 敦, 姫野太郎, 奥野太寿生, 大黒正志, 矢野 浩, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における要支援要介護および死亡の縦断研究(1): 地域在住高齢者における 4 年間の要支援要介護認定の原因疾患調査, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
124. *7 姫野太郎, 入谷 敦, 奥野太寿生, 森田卓朗, 大黒正志, 矢野 浩, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における要支援要介護および死亡の縦断研究(2): 地域在住高齢者における 4 年間の死亡に関与する因子の解析, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
125. *7 矢野 浩, 入谷 敦, 森田卓朗, 姫野太郎, 奥野太寿生, 大黒正志, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における要支援要介護および死亡の縦断研究(3): 4 年間の骨関節疾患による要支援要介護認定に関与する因子の解析, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
126. *7 奥野太寿生, 入谷 敦, 矢野 浩, 森田卓朗, 姫野太郎, 大黒正志, 小泉由美, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における要支援要介護および死亡の縦断研究(4): 4 年間の認知症による要支援要介護認定に関与する因子の解析, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
127. 岩井邦充, 森田卓朗, 東川俊寛, 渥美三貴子, 矢野 浩, 入谷 敦, 大黒正志, **森本茂人**: 動脈硬化過程平滑筋細胞における核小体蛋白 nucleostemin の働き, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
128. **森本茂人**: 教育講演1. 高齢者の高血圧の管理, 第 56 回日本老年医学会学術集会・総会, (福岡, 2014 年 6 月)
129. *6 **三輪高喜**: 嗅覚の加齢変化とアンチエイジング, 第 14 回日本抗加齢医学会総会, (大阪, 2014 年 6 月)
130. Matsuda Y, **Kawasaki Y**, Takahashi T, Kido M, Nakamura K, Furuichi A, Suzuki M: Gyrification of Superior Temporal Gyrus Schizophrenia :Possibility of Clinical Application, OHBM 2014 Annual Meeting, (Hamburg, 2014 年 6 月)
131. *3 木原弘晶, 新田佑輔, 松田幸久, 橋本玲子, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: Near-infrared spectroscopy を用いた双極性障害の家族集積性の研究, 日本精神神経学会学術総会, (横浜市, 2014 年 6 月)
132. *4 嶋田貴充, 松田幸久, 紋川明和, 紋川友美, 橋本玲子, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 統合失調症患者における MRI と NIRS による脳形態と脳機能の研究, 日本精神神経学会学術総会, (横浜市, 2014 年 6 月)
133. 大黒正志, 奥野太寿生, 姫野太郎, 森田卓朗, 東川俊寛, 矢野 浩, 渥美三貴子, 入谷 敦, 岩井邦充, **森本茂人**: 高齢者脳出血症例における入院時血圧値と急性期肺炎発症との関係, 第 3 回臨床高血圧フォーラム, (広島, 2014 年 5 月)
134. 山田真也, 本江由香, 村中絵美里, **神田享勉**, 水野宅郎, 清澤旬, 浅野正充, 泉洋一, 福田昭宏: 当院における熱中症患者の検討, 第 111 回日本内科学会, (東京, 2014 年 4 月)
135. *8 **北村 修**: 自殺剖検例における下垂体疾患, 金沢医科大学平成 25 年度戦略プロジェクト研究 研究成果発表会, (内灘町, 2014 年 4 月)
136. **Kawasaki Y**, Hashimoto R, ono S, Shimada T, Kihara H, Matsuda Y, Tunoda M: Early detection and intervention project for young people at risk for developing psychosis in Uchinada, 4rd Biennial Schizophrenia International Research Society Conference, (Florence, 2014 年 4 月)
137. **森本茂人**: 第 3 部 講演2「骨も血管も若返らせる食事と栄養」, 第 5 回 金沢骨を守る会市民フォーラム ストップ ザ 骨粗しょう症, 廣田孝子 コーディネーター(質疑応答), (金沢, 2014 年 3 月)
138. **川崎康弘**: 精神疾患患者の救急診療について考える, 石川 EMS 研究会, (内灘, 2014 年 3 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

139. *5 山田奏子, 能田拓也, 山田健太郎, 山本純平, 志賀英明, 三輪高喜: 好酸球性副鼻腔炎における嗅覚障害の術後成績, 第 32 回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, (徳島, 2014 年 2 月)
140. *5 三輪高喜: 嗅覚障害とアレルギー性鼻炎, 第 63 回日本アレルギー学会秋期学術大会, (東京, 2013 年 11 月)
141. 橋本玲子, 北本福美, 前田勝也, 紋川友美, 川崎康弘: IPS の視点で取り組んだ就労支援の一事例, 日本精神科医学会学術大会, (大宮, 2013 年 11 月)
142. Iwai K, Morita T, Iritani O, Morimoto S, Nakamura Y, Ishigaki Y: CTCF and HMGA1 opposite directionally regulate the gene expression of microRNAs at scaffold/matrix-attachment regions in the arterial smooth muscle cell, American Heart Association Scientific sessions 2013, (Dallas, 2013 年 11 月)
143. *7 森本茂人: シンポジウム I : 認知症と生活習慣病 高血圧の観点から, 第 15 回感情・行動・認知 (ABC) 研究会, (大阪, 2013 年 10 月)
144. *5 Miwa T, Shiga H, Yamamoto J: Olfactory nerve transportation as clinical application for olfactory disorder, 7th International symposium on recent advances in rhinosinusitis and nasal polyposis, (松江, 2013 年 10 月)
145. *5 Yamada K, Yamamoto J, Yamada K, Shiga H, Miwa T: Outcomes of olfactory function by endoscopic sinus surgery in the patients with eosinophilic chronic sinusitis, 7th International symposium on recent advances in rhinosinusitis and nasal polyposis, (松江, 2013 年 10 月)
146. *5 志賀英明, 張田雅之, 能田拓也, 山田健太郎, 山本純平, 三輪高喜: 中高年女性に多い感冒罹患後嗅覚障害と漢方治療, 第 29 回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, (東京, 2013 年 10 月)
147. *5 三輪高喜: 外傷性嗅覚障害の漢方治療成績と分子イメージング解析, 第 52 回日本鼻科学会, (福井, 2013 年 9 月)
148. *5 山田奏子, 志賀英明, 三輪高喜, 松井 真: スルピリドが原因と思われた嗅覚障害の 2 症例, 第 52 回日本鼻科学会, (福井, 2013 年 9 月)
149. *5 志賀英明, 山本純平, 三輪高喜: 嗅神経脳内輸送解析のためのトレーサーペプチドの検討, 日本味と匂学会第 47 回大会, (仙台, 2013 年 9 月)
150. Hashimoto R, Matsuda Y, Kawahara M, Kitamoto F, Kawasaki Y: Usability of Self-Other Focused Thinking Error Scale (SOFT) for clinical patients, 43rd Annual Congress European Association for Behavioural and Cognitive Therapies, (Marrakech, 2013 年 9 月)
151. Matsuda Y, Shimada T, Monkawa T, Monkawa A, Watanabe K, Kawasaki Y: Curvature of the temporal pole in patients with schizophrenia: Statistical characteristics and its visualization, V, International Conference on Basic and Clinical Multimodal Imaging, (Geneva, 2013 年 9 月)
152. Shimada T, Matsuda Y, Hashimoto R, Monkawa T, Monkawa A., Watanabe K, Kawasaki Y: Relationship between the brain structure and social functioning in the patients with schizophrenia, International Conference on Basic and Clinical Multimodal Imaging, (Geneva, 2013 年 9 月)
153. 松田幸久, 川崎康弘: 選択反応課題成績をもちいた統合失調症の診断補助法, 日本心理学会, (札幌, 2013 年 9 月)
154. *5 Shiga H, Miwa T: Nasal administered peptide and olfactory nerve transport to brain in vivo, The 16th Asian Research Symposium in Rhinology, (東京, 2013 年 8 月)
155. *5 Shiga H, Taki J, Washiyama K, Yamamoto J, Kinuya S, Amano R, Furukawa M, Miwa T: Prognostic value of nasal thallium-201 transport to olfactory bulb in patients with olfactory disorders, Leuven, European Chemoreception Research Organization 2013, (Belgium, 2013 年 8 月)
156. Kawasaki Y, Hashimoto R, Ono S, Shimada T, Kihara Y, Matsuda Y, Tunoda M: Early detection and intervention project for young people at risk for developing psychosis Uchinada, 21st World Congress Social Psychiatry, (Lisbon, 2013 年 7 月)
157. *3 木原弘晶, 嶋田貴充, 新田佑輔, 松田幸久, 橋本玲子, 渡辺健一郎, 川崎康弘: 気分障害における NIRS の所見, 北陸精神神経学会, (富山, 2013 年 7 月)
158. *4 嶋田貴充, 松田幸久, 橋本玲子, 紋川友美, 紋川明和, 渡辺健一郎, 川崎康弘: 統合失調症患者における脳構造・脳機能と社会機能との関係, 北陸精神神経学会, (富山, 2013 年 7 月)
159. 岩井邦充, 入谷 敦, 森田卓朗, 渥美三貴子, 東川俊寛, 矢野 浩, 大黒正志, 森本茂人, 中村有香, 石垣靖人: 血管平滑筋分化をつかさどる miRNA の遺伝子発現はクロマチンモジュレーター蛋白 CTCF および HMGA1 の制御を受ける, 第 49 回金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2013 年 7 月)
160. *7 森本茂人: ランチョンセミナー 24「高齢者高血圧」②地域在住高齢者における高血圧と生活機能の障害, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
161. 大黒正志, 小泉由美, 小豆澤定史, 姫野太郎, 東川俊寛, 渥美三貴子, 矢野 浩, 入谷 敦, 岩井邦充, 森本茂人: 高齢者脳内出血例における入院時血圧の急性肺炎発症への関与, 第 55 回日本老年医

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- 学会学術集会, (大阪, 2013 年 6 月)
162. 岩井邦充, 入谷 敦, 渥美三貴子, 東川俊寛, 矢野 浩, 大黒正志, **森本茂人**: 血管平滑筋細胞アポトーシス過程におけるクロマチンモジュレーター蛋白 CTCF の役割, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
163. **森本茂人**: 高齢者疾患の診断, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
164. *7 小泉由美, 浜崎優子, 大黒正志, 入谷 敦, 矢野 浩, 東川俊寛, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における高血圧と生活機能との関連, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
165. *7 入谷 敦, 小泉由美, 浜崎優子, 姫野太郎, 東川俊寛, 渥美三貴子, 矢野 浩, 大黒正志, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における高血圧治療到達値と生活機能との関連, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
166. *7 東川俊寛, 小泉由美, 浜崎優子, 大黒正志, 入谷 敦, 矢野 浩, 姫野太郎, 小豆澤定史, 岩井邦充, **森本茂人**: 地域在住高齢者における世帯形態別の要支援要介護認定と生活機能との関連, 第 55 回日本老年医学会集会・総会, (大阪, 2013 年 6 月)
167. Okuro M, **Morimoto S**: Association of severe hypertension with pneumonia in elderly patients with acute stage cerebral infarction, THE 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics (IAGG 2013), (Seoul, 2013 年 6 月)
168. *5 **Miwa T**: Olfactory nerve transportation as clinical application for olfactory disorders, 20th World Congress of the International Federation of Oto-Rhino-Laryngological Societies, (Seoul, 2013 年 6 月)
169. 山田奏子, 稲垣信吾, 鈴鹿有子, **三輪高喜**: 側頭瘻(完全瘻)の 1 例, 第 8 回日本小児耳鼻咽喉科学会, (前橋, 2013 年 6 月)
170. Matsuda Y, Shimada T, **Kawasaki Y**: Local cortical gyrification of the insula in schizophrenia: Statistical characteristics and its visualization. 11th World Congress of Biological Psychiatry, (Kyoto, 2013 年 6 月)
171. Takahashi Y, Nakamura K, Ikeda E, Furuichi A, Kido M, **Kawasaki Y**, Noguchi K, Seto H, Suzuki M.: Altered depth of the olfactory, 11th World Congress of Biological Psychiatry, (Kyoto, 2013 年 6 月)
172. *4 Shimada T, Matsuda Y, Monkawa A, Hashimoto R, Kihara H, Watanabe K, **Kawasaki Y**: Relationship between the brain structure function and social functioning in the patients with schizophrenia, 11th World Congress of Biological Psychiatry, (Kyoto, 2013 年 6 月)
173. Higuchi Y, Sumiyoshi T, Seo T, Miyanishi T, **Kawasaki Y**, Suzuki M.: Mismatch negativity and cognitive performance for the M-prediction of psychosis in subjects with at-risk mental state, 11th World Congress of Biological Psychiatry, (Kyoto, 2013 年 6 月)
174. 紋川友美, 紋川明和, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 高齢者における嫉妬妄想の臨床的検討, 日本老年精神医学会, (大阪, 2013 年 6 月)
175. *5 **三輪高喜**, 志賀英明, 山田奏子, 山本純平: 好酸球性副鼻腔炎による嗅覚障害の予後に関する検討, 第 25 回日本アレルギー学会春季臨床大会, (横浜, 2013 年 5 月)
176. *5 **三輪高喜**: 嗅覚障害の診断と治療, 第 114 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会, (札幌, 2013 年 5 月)
177. *5 志賀英明, 瀧 淳一, 鷲山幸信, 山本純平, 絹谷清剛, 天野良平, 古川 亙, **三輪高喜**: 嗅覚障害治療の予後因子としてのタリウム-201 嗅神経移行度の有用性, 第 114 回日本耳鼻咽喉科学会, (札幌, 2013 年 5 月)
178. *5 山田奏子, 山本純平, 志賀英明, **三輪高喜**: 好酸球性副鼻腔炎における嗅覚障害, 第 114 回日本耳鼻咽喉科学会, (札幌, 2013 年 5 月)
179. *4 新田佑輔, 木原弘晶, 荘 将也, 小関陽樹, 紋川友美, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 統合失調症における前頭葉機能の研究～流暢性課題を用いた NIRS による検討～, 日本精神神経学会, (福岡, 2013 年 5 月)
180. 松田幸久, **川崎康弘**: FreeSurfer を用いた側頭平面の可視化, 日本生理心理学会, (福井, 2013 年 5 月)
181. *2 森河裕子, 中村幸志, 櫻井 勝, 長澤晋也, 中川秀昭, **石崎昌夫**, 城戸照彦, 成瀬優知, 岡元千明, 中島有紀: 仕事要因と多量飲酒習慣の関連の年齢層別検討, 第 86 回日本産業衛生学会, (松山, 2013 年 5 月)
182. Shiga H, Nagaoka M, Washiyama K, Yamamoto J, Amano R, **Miwa T**: Assessment of nasally administered insulin-like growth factor-I accumulation in the cerebrum of mice with resected olfactory bulb, The 35th annual meeting of the Association for Chemoreception Sciences, (Huntington Beach, USA, 2013 年 4 月)
183. Yamamoto J, Shiga H, Washiyama K, Amano R, **Miwa T**: Effect of kamikihito (TJ-137) on nerve growth factor and olfactory nerve in vivo, The 35th annual meeting of the Association for Chemoreception Sciences, (Huntington Beach, USA, 2013 年 4 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

184. **Morimoto S**: ME07-3 Guidelines for Medical Care Providers (MCP) and Non-MCP to Manage the First Steps of Emergency Triage of Elderly Evacuees, 第 77 回日本循環器学会学術集会, (横浜, 2013 年 3 月)
185. Iwai K, Iritani O, Okuro M, **Morimoto S**, Nakamura Y, **Ishigaki Y**: Opposite directional regulations of microRNA expression in arterial smooth muscle cell by HMGA1 and CTCF on the scaffold/matrix-attachment regions, The 77th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, (Yokohama, 2013 年 3 月)
186. 小島好司, 黄 正寿, 加藤 諒, 東野菜莉, 北楯祥子, 四宮祥平, 小林 誠, 齋藤雅俊, 藤本由貴, 及川 卓, 中川 研, 土原一真, 水野史朗, 長内和弘, 榎 博久, 酒井あや, 佐藤仁志, 大黒正志, **川崎康弘**, 堀 有行, 福永壽晴: 覚醒時の鼻咽頭抵抗が高い患者において口呼吸が睡眠時無呼吸に及ぼす影響, 睡眠呼吸障害研究会, (東京, 2013 年 2 月)
187. 大久保裕章, 木原弘晶, 新田佑輔, 荘 将也, 渡辺健一郎, **川崎康弘**: 摂食障害の成人例における臨床的特徴—入院例を中心に—, 北陸精神神経学会, (金沢, 2013 年 1 月)

(基礎研究)

188. *21 坂田ひろみ, 島田ひろき, 狩山信生, 有川智博, **東海林博樹**, **八田稔久**: ゼブラフィッシュ骨格観察のための簡易透明化法の開発と解析法の検討, 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会, (長崎, 2017 年 3 月)
189. *18 三浦公実, 阪上大昌, 島田ひろき, 王 賀, 塚田剛史, 坂田ひろみ, 廖 生俊, 有川智博, **東海林博樹**, **八田稔久**: 胎児脳発達を促進する母胎間白血球抑制因子(LIF)シグナルリレー発動の検出方法の検討, 第 122 回日本解剖学会総会・全国学術集会, (長崎, 2017 年 3 月)
190. *13 **加藤伸郎**, 極低侵襲の光照射はアミロイド毒性にどう対抗するか, 科学技術振興機構さきがけ研究 21 第 17 回「知と構成」領域懇話会, (箱根, 2016 年 12 月)
191. *12 **加藤伸郎**, ECT の基礎と臨床-最近の話題, 第 112 回日本精神神経学会学術総会, (千葉, 2016 年 6 月)
192. *16 齋藤英仁, 吉富泰央, 池田崇之, **加藤伸郎**, **米倉秀人**: 強制水泳ストレスを負荷したうつモデルマウスの脳海馬で発現変動する遺伝子の探索, 第 89 回日本生化学会大会, (仙台, 2016 年 9 月)
193. Sakai T, **Muraki Y**, Saito S: C 型インフルエンザウイルスの運動機構 (Motile mechanism of influenza C virus), 第 54 回日本生物物理学会年会, (つくば, 2016 年 11 月)
194. Sakai T, **Muraki Y**, Saito S: Motile mechanism of influenza C virus (C 型インフルエンザウイルスの運動機構), 第 64 回日本ウイルス学会学術集会総会, (札幌, 2016 年 10 月)
195. *24 Shimotai Y, Sugawara K, Matsuzaki Y, **Muraki Y**, Goto T, Hongo S: Identification of amino acid sequences of CM2 cytoplasmic domain involved in influenza C virus replication (C 型インフルエンザウイルスの増殖に関与する CM2 細胞質領域のアミノ酸配列同定), 第 64 回日本ウイルス学会学術集会総会, (札幌, 2016 年 10 月)
196. *24 下平義隆, 菅原勘悦, 松寄葉子, **村木 靖**, 後藤崇成, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルスの増殖に関与する CM2 の細胞質領域のアミノ酸配列, 第 70 回日本細菌学会東北支部総会, (十和田, 2016 年 8 月)
197. 堺立也, 齋藤峰輝, **村木 靖**: C 型インフルエンザウイルスの運動様式, 第 30 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (山形, 2016 年 6 月)
198. *23 佐々木裕, 大桑孝子, 吉野直人, 池田 浩, **村木 靖**: C 型インフルエンザウイルスに対する抗体が交差反応する宿主因子の解析と宿主機能への影響, 第 30 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (山形, 2016 年 6 月)
199. *18 **Hatta T**, Tsukada T, Shimada H, Arikawa T, **Shoji H**, W He, Sakata H: Immune-endocrine communication between mother and fetus contributes to fetal brain development, Third Myanmar-Japan international Symposium, (Myanmar, 2016 年 12 月)
200. *20 Shengjun Liao, Arikawa T, Shimada H, Sakata-Haga H, **Hatta T**, **Shoji H**: Autophagy contributes to the differentiation of rat trophoblast cells, partially through down regulating Galectin-4 expression, 第 39 回日本分子生物学会年会, (横浜市, 2016 年 11 月)
201. *19 Tsukada T, Shimada H, W He, Sakata-Haga H, Iizuka H, **Hatta H**: Critical role of SOCS3 in the suppression of the maternal-fetal leukemia inhibitory factor signal relay pathway for fetal brain development, 5th conference on prenatal programming and toxicity, (福岡, 2016 年 11 月)
202. 坂田ひろみ, Bold luramt, 福井義浩, 島田ひろき, **八田稔久**: バルプロ酸が脊髄神経の形成に及ぼす影響, 第 76 回日本解剖学会中部支部学術集会, (松本, 2016 年 10 月)
203. *21 **八田稔久**: 組織透明化技術, ”未来へのバイオ技術”勉強会「ハイコンテンツアナリシス(HCA)技術の進化」, (東京, 2016 年 2 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

204. *19 塚田剛史, 島田ひろき, 王 賀, 東 伸明, 飯塚秀明, 八田稔久: 大脳皮質発生に関わる母胎児間 LIF-ACTH-LIF シグナルリレーにおける胎盤 Crh と Pomc の挙動, 第 56 回日本先天異常学会学術集会, (兵庫, 2016 年 7 月)
205. 松本暁洋, 古屋智英, 小川典子, 佐藤文夫, 佐藤文夫, 橋本龍樹, 八田稔久, 大谷 浩: マウス胎仔脳組織形成における顆粒球・マクロファージコロニー刺激因子の作用の解析, 第 56 回日本先天異常学会学術集会, (姫路, 2016 年 7 月)
206. 赤井卓也, 八田稔久, 島田ひろき, 水城圭司, 工藤奈江, 八田泰三, 大谷 浩: 脳室内脳せき髄液とくも膜下腔脳脊髄液の動きの相違とその意義, 第 56 回日本先天異常学会学術集会, (姫路, 2016 年 7 月)
207. *21 吉村衣里子, 杉原諒, 三浦公実, 島田ひろき, 東 伸明, 三谷真弓, 狩山信生, 有川智博, 東海林博樹, 八田稔久: GFP マウス胎仔の透明化による心臓発生過程の立体画像化, 第 121 回日本解剖学会・全国学術集会, (福島, 2016 年 3 月)
208. *27 砂谷優実, 辰野貴則, 中村有香, 逆井 良, 松井 理, 橋本光正, 石垣靖人, 岩淵邦芳: DNA 二本鎖切断修復タンパク質 53BP1 を介した神経前駆細胞の分化抑制効果, 日本放射線影響学会第 59 回大会, (広島, 2016 年 10 月)
209. 逆井 良, 磯野真由, 若杉光夫, 橋本光正, 砂谷優実, 松井 理, 柴田淳史, 松永 司, 岩淵邦芳: RNA ヘリカーゼ Aquarius は DNA-RNA ハイブリッドを解消して相同組換え修復を促進する, 第 39 回日本分子生物学会年会, (横浜, 2016 年 12 月)
210. 逆井 良, 磯野真由, 若杉光夫, 橋本光正, 砂谷優実, 松井 理, 柴田淳史, 松永 司, 岩淵邦芳: RNA ヘリカーゼ Aquarius は R-loop を解消して相同組換え修復を促進する, 日本放射線影響学会第 59 回大会, (広島, 2016 年 10 月)
211. Sakasai R, Sunatani Y, Matsui T, Iwabuchi K: Topoisomerase II switching is regulated by ubiquitination, Gordon Research Conference, DNA Topoisomerase in Biology & Medicine, (Sunday River, 2016 年 8 月)
212. *13 Kato N: Therapeutic potential of photic stimulation for neuropsychiatric diseases, Tongji Medical College, invited lecture, (Wuhan, China, 2015 年 10 月)
213. *15 Kato N, Zou J: Deficits in Morris water maze performance exacerbated by minimal neocortical injury in a mouse model of Alzheimer's disease, Neuroscience 2015, (Chicago, 2015 年 10 月)
214. *13 Kato N: Therapeutic potential of photic stimulation for neuropsychiatric diseases, China-Japan Friendship Hospital, inviter lecture, (Beijing, China, 2015 年 9 月)
215. 清水義朗, 奥田鉄人, 川原範夫, 加藤伸郎, 石垣靖人, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 の抑制効果について, 第 44 回日本脊椎脊髄病学会, (福岡, 2015 年 4 月)
216. Tanaka K, Li Yongzhi, Kato N: Memory disturbance in mice treated with intraventricular administration of CSF from NMDAR-encephalitis patients, The Lancet Neurology Autoimmune Disorders Conference, (Barcelona, 2015 年 3 月)
217. *12 Kato N: Behavioral recovery by transcranial magnetic stimulation in a mouse model of depression is dependent on Homer1a expression, 1st International Brain Stimulation Conference, (Singapore, 2015 年 3 月)
218. Osada H, Yoshitomi Y, Ikeda T, Yoshitake Y, Yonekura H, Kubo E, Sasaki H: Identification of UVB responsive genes in invivo mouse lens by cDNA microarray, The 3rd International Conference on the Lens, (Hawaii, USA, 2015 年 12 月)
219. *17 吉富康央, 池田崇之, 吉竹佳乃, 米倉秀人: 神経-血管相互作用により血管内皮細胞で活性化される JunB の役割, 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学大会合同大会, (神戸, 2015 年 12 月)
220. 吉竹佳乃, 池田崇之, 吉富康央, 米倉秀人: 毛細血管内皮細胞のマトリゲル上での管腔形成における Epac2 の作用, 第 38 回日本分子生物学会年会・第 88 回日本生化学大会合同大会, (神戸, 2015 年 12 月)
221. Shimotai Y, Goto T, Matsuzaki Y, Muraki Y, Sugawara K, Hongo S: Identification of nuclear export signal of influenza C virus NS1 protein (C 型インフルエンザウイルス NS1 タンパク質の核外移行シグナルの同定), 第 63 回日本ウイルス学会学術集会総会, (福岡, 2015 年 11 月)
222. *24 Goto T, Shimotai Y, Matsuzaki Y, Muraki Y, Sho R, Sugawara K, Hongo S: The effect of the phosphorylation of the CM2 protein on influenza C virus replication (C 型インフルエンザウイルス CM2 タンパク質のウイルス増殖への影響), 第 63 回日本ウイルス学会学術集会総会, (福岡, 2015 年 11 月)
223. Sasaki Y, Yoshino N, Sato S, Muraki Y: Analysis of beta-propiolactone sensitive influenza virus (ベータプロピオラクトン感受性インフルエンザウイルスの解析), 第 63 回日本ウイルス学会学術集会総会, (福岡, 2015 年 11 月)
224. *24 後藤崇成, 下平義隆, 松寄葉子, 村木 靖, 邵 力, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- スの CM2 タンパク質のリン酸化が増殖に及ぼす影響, 第 69 回日本細菌学会東北支部総会, (郡山, 2015 年 8 月)
225. 下平義隆, 後藤崇成, 松寄葉子, **村木 靖**, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス NS1 タンパク質の核外移行シグナル, 第 69 回日本細菌学会東北支部総会, (郡山, 2015 年 8 月)
226. 下平義隆, 後藤崇成, 松寄葉子, **村木 靖**, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルスの NS1 の核移行及び核外移行シグナル, 第 29 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (東京, 2015 年 5 月)
227. *24 後藤崇成, 下平義隆, 松寄葉子, **村木 靖**, 邵 力, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルスの CM2 タンパク質のリン酸化は効率的な増殖に必要なものである, 第 29 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (東京, 2015 年 5 月)
228. *18 島田ひろき, 塚田剛史, 有川智博, **東海林博樹**, 東 伸明, **八田稔久**: 母体免疫亢進時におけるインターロイキン 6 の母胎間移行動態, 第 4 回 DOHaD 研究会, (東京, 2015 年 8 月)
229. *20 有川智博, 島田ひろき, **八田俊久**, 中村隆範, **東海林博樹**: オートファジーによるガレクチン 4 発現制御を軸とした胎盤形成機構の解明, 第 34 回日本糖質学会年会, (東京, 2015 年 7 月)
230. *19 塚田剛史, 島村英理子, 島田ひろき, 東 伸明, 赤井卓也, 飯塚秀明, **八田稔久**: 母体免疫活性化による母胎間 LIF-ACTH-LIF シグナルリレーの破綻と胎仔脳形成障害, 第 55 回日本先天異常学会学術集会, (横浜, 2015 年 7 月)
231. *21 **八田稔久**: 生物試料の透明化: 古典から最新技術まで, 医学生物学電子顕微鏡技術学会(招待講演), (名古屋, 2015 年 6 月)
232. *26 **石垣靖人**, 中村有香, 辰野貴則, 島崎猛夫: ヒト血清由来細胞外小胞の走査型電子顕微鏡観察, 第 7 回日本 RNAi 研究会/第 2 回日本細胞外小胞学会, (広島, 2015 年 8 月)
233. *26 **石垣靖人**, 中村有香, 辰野貴則, 島崎猛夫: ヒト由来細胞外小胞の解析, 第 31 回医学生物学電子顕微鏡技術学会, (名古屋, 2015 年 6 月)
234. Matsui Y, Sunatani Y, **Iwabuchi K**, Yokoyama H: DNA double strand breaks accelerated collagen type VI secretion of glomerular endothelial cells, ERA-EDTA 52nd Congress, (London, 2015 年 6 月)
235. 砂谷優実, R P Kamdar, M K Sharma, 松井 理, 逆井 良, 橋本光正, 松本義久, **岩淵邦芳**: 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, (神戸, 2015 年 12 月)
236. Sunatani Y, M K Sharma, R P Kamdar, Matsui T, Sakasai R, Hashimoto M, Matsumoto Y, **Iwabuchi K**: Phosphorylation-mediated Regulation of Apoptosis By NHEJ-protein XRCC4, 15th International Congress of Radiation Research, (Kyoto, 2015 年 5 月)
237. 逆井 良, 砂谷優実, 松井 理, 橋本光正, **岩淵邦芳**: Top2-poison に対する主要調節因子であるユビキチン化酵素の同定, 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, (神戸, 2015 年 12 月)
238. Sakasai R, Sunatani Y, Matsui T, Hashimoto M, **Iwabuchi K**: Ubiquitin-dependent Activation of DNA-PKcs Leads to Chromosomal Aberration in Response to One-ended DNA Double Strand Breaks, (Kyoto, 2015 年 5 月)
239. 松井 理, 逆井 良, 砂谷優実, 橋本光正, **岩淵邦芳**: p53 標的遺伝子発現における 53BP1 の機能的役割, 第 38 回日本分子生物学会年会 第 88 回日本生化学会大会 合同大会, (神戸, 2015 年 12 月)
240. 渡邊直人, 道合万里子, 高橋知子, 利波久雄, **岩淵邦芳**: 骨転移に対する RI 治療におけるリンパ球の放射線障害, 第 74 回日本医学放射線学会総会, (横浜, 2015 年 4 月)
241. *13 **加藤伸郎**: BK チャンネル活性化によるアルツハイマー病モデル認知改善, 科学技術振興機構さきがけ研究 21 第 14 回「知と構成」領域懇話会, (熱海, 2014 年 4 月)
242. *13 **Kato N**: Chronic activation of a potassium channel as a means to improve learning in a mouse model of Alzheimer's disease, Tongji Medical College, HUST, (Wuhan, 2014 年 11 月)
243. *13 Wang L, Yamamoto R, **Kato N**: Neuronal effects of BK channel opener applied to a mouse Alzheimer disease model, Neuroscience 2014, (Washington, 2014 年 11 月)
244. Shimizu Y, Okuda T, Kawahara N, **Kato N**, **Ishigaki Y**, Matsumoto T: The relevance of hyaluronidase-4 and astrocytes in a rat spinal cord hemisection model, Neuroscience 2014, (Washington, 2014 年 11 月)
245. 清水義朗, 奥田鉄人, 川原範夫, **加藤伸郎**, **石垣靖人**, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 の抑制効果, 第 49 回日本脊髄障害医学会, (旭川, 2014 年 9 月)
246. Tanaka K, Li Y, Li Wang L, **Kato N**, Matsui M, Takegami T: Memory disturbance of the mice treated with intraventricular administration of CSF from NMDAR-encephalitis patients, American Academy of Neurology 2014 Annual Meeting, (Philadelphia, 2014 年 5 月)
247. Shimizu Y, Okuda T, Kawahara N, **Kato N**, **Ishigaki Y**, Matsumoto T: The relevance of hyaluronidase-4 and astrocyte in a rat spinal cord hemisection model, CSRS AP5 Viet Nam 2014, (Ho Chi Minh, 2014 年 4 月)
248. *17 吉富泰央, 池田崇之, 吉竹佳の, **米倉秀人**: 神経-血管相互作用により活性化される JunB の血管

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- ネットワーク形成における機能, 第 87 回日本生化学会大会, (京都, 2014 年 10 月)
249. 池田崇之, 吉富泰央, 吉竹佳の, 米倉秀人: 可溶性 Flt-1(VEGFR-1)産生は hnRNP D によって制御されている, 金沢医科大学医学会第50回学術集会, (内灘, 2014 年 7 月)
250. 池田崇之, 吉富泰央, 吉竹佳の, 米倉秀人: 可溶性 Flt-1(VEGFR-1)産生は hnRNP D によって制御されている, 第 87 回日本生化学会大会, (京都, 2014 年 10 月)
251. ***24** 村木 靖, 大桑孝子, 野田岳志, 姫田敏樹, 本郷誠治, 大原義朗: C 型インフルエンザウイルスの M 遺伝子の splicing 効率が粒子の形態に与える影響, 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, (横浜, 2014 年 11 月)
252. 大桑孝子, 村木 靖, 姫田敏樹, 大原義朗: レセプター結合部位に変異をもつ C 型インフルエンザウイルス HEF 蛋白の解析, 第 62 回日本ウイルス学会学術集, (横浜, 2014 年 11 月)
253. 下平義隆, 後藤崇成, 松寄葉子, 村木 靖, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス NS1 タンパク質の核移行及び核外移行シグナルの解析, 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, (横浜, 2014 年 11 月)
254. 村木 靖: インフルエンザウイルスーその生態と最近の話題ー, 第 19 回日本神経感染症学会総会学術集会, (金沢, 2014 年 9 月)
255. ***24** 村木 靖, 大桑孝子, 野田岳志, 姫田敏樹, 本郷誠治, 大原義朗: C 型インフルエンザウイルスの M 遺伝子の splicing 効率が粒子の形態に与える影響, 第 68 回日本細菌学会東北支部総会, (仙台, 2014 年 8 月)
256. ***24** 後藤崇成, 下平義隆, 松寄葉子, 村木 靖, 邵力, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス CM2 タンパク質のリン酸化がゲノムパッケージングに及ぼす影響, 第 68 回日本細菌学会東北支部総会, (仙台, 2014 年 8 月)
257. 下平義隆, 後藤崇成, 松寄葉子, 村木 靖, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス NS1 タンパク質の核移行及び核外移行シグナル, 第 68 回日本細菌学会東北支部総会, (仙台, 2014 年 8 月)
258. 下平義隆, 後藤崇成, 松寄葉子, 村木 靖, 菅原勘悦, 本郷誠治: C 型インフルエンザウイルス NS1 タンパク質の細胞内輸送シグナルの解析, 第 28 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (鳥取, 2014 年 7 月)
259. ***24** 村木 靖, 大桑孝子, 野田岳志, 姫田敏樹, 本郷誠治, 大原義朗: C 型インフルエンザウイルス M 遺伝子のスプライシング効率と増殖の関連, 第 28 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (鳥取, 2014 年 7 月)
260. 大桑孝子, 村木 靖, 姫田敏樹, 大原義朗: C 型インフルエンザウイルス HEF のレセプター結合部位変異体の解析, 第 28 回インフルエンザ研究者交流の会シンポジウム, (鳥取, 2014 年 7 月)
261. 倉本純子, 平野 了, 元矢知志, 八田稔久, 大谷 浩: マウス胎児の腸管上皮における細胞数の計測, 第 54 回日本先天異常学会学術集会, (相模原, 2014 年 7 月)
262. ***19** 塚田剛史, 島村英理子, 島田ひろき, 赤井卓也, 飯塚秀明, 八田稔久: 軽度から中等度の母胎免疫活性化によって胎児大脳皮質の形成に関わる母胎間シグナルリレーは亢進する, 第 54 回日本先天異常学会学術集会, (相模原, 2014 年 7 月)
263. ***20** 有川智博, 島田ひろき, 島村英理子, 大谷 浩, 八田稔久, 東海林博樹: オートファジーによるガレクチン4発現制御を軸とした胎盤形成機構の解明, 第 54 回日本先天異常学会学術集会, (相模原, 2014 年 7 月)
264. 内芝舞実, 島村英理子, 坂田ひろみ, 島田ひろき, 東 伸明, 有川智博, 東海林博樹, 福井義浩, 八田稔久: ラット新生児の定量的人工哺育システムの開発, 第 54 回日本先天異常学会学術集会, (相模原, 2014 年 7 月)
265. ***18** 島田ひろき, 島村英理子, 塚田剛史, 東海林博樹, 東 伸明, 八田稔久: 母胎間 LIF- β -LIF シグナルリレーによる insulin-like growth factor を介した神経幹/前駆細胞の増殖作用, 第 3 回 DOHaD 研究会, (東京, 2014 年 7 月)
266. ***19** 塚田剛史, 島田ひろき, 島村英理子, 東 伸明, 赤井卓也, 飯塚秀明, 八田稔久: 母胎免疫活性化は大脳皮質形成に働く母胎間 LIF/ β -LIF シグナルリレーを抑制する, 第 3 回 DOHaD 研究会, (東京, 2014 年 7 月)
267. 島田ひろき, 黒田尚宏, 東 伸明, 島村英理子, 八田稔久: 肉眼解剖学・発生学を統合した組織学総合試験パッケージシステムの開発とバーチャルスライド組織学実習におけるその学習効果, 日本解剖学会総会, (栃木, 2014 年 3 月)
268. 辰野貴則, 中村有香, 石垣靖人: 中心体局在にする mRNA 結合因子, 第 37 回日本分子生物学会年会 (横浜, 2014 年 11 月)
269. ***25** Ishigaki Y, Nakamura Y, Tatsuno T, Hashimoto M, Shimazaki T, Iwabuchi K, Tomosugi N: Role of RNA binding protein in cell cycle progression and centrosome maturation in human tumor cells, 19th World

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- Congress on Advances in Oncology & 17th International Symposium of Molecular Medicine, (アテネ, 2014年10月)
270. **石垣靖人**, 中村有香, 辰野貴則, 竹上勉, 中川秀昭, 友杉直久, 桑畑進: イオン液体を用いた迅速簡便な走査電顕試料作製, 日本細胞生物学会大会, (奈良, 2014年6月)
271. Sakasai R, Sunatani Y, Matsui T, Hashimoto M, **Iwabuchi K**: Ubiquitin-dependent activation of DNA-PKcs in response to DNA replication-mediated DNA double strand breaks, The 9th 3R Symposium Together with National Institute of Genetics 2014 International Symposium, (御殿場, 2014年11月)
272. 砂谷優実, R P Kamdar, M K Sharma, 松井 理, 逆井 良, 橋本光正, 松本義久, **岩淵邦芳**: XRCC4 のカスパーゼ依存的な切断によって引き起こされるアポトーシス促進の機構, 第 87 回日本生化学会大会, (京都, 2014年10月)
273. 逆井 良, 松井 理, 砂谷優実, 橋本光正, **岩淵邦芳**: ユビキチン化を介した DNA-PKcs 活性化機構, 日本放射線影響学会第 57 回大会, (鹿児島, 2014年10月)
274. Doai M, Watanabe N, Takahashi T, Tonami H, **Iwabuchi K**: Radiotoxicity after radioisotope therapy for bone metastases using γ -H2AX foci of DNA damage in lymphocytes, The 73rd Annual Meeting of the Japan Radiological Society, (横浜, 2014年4月)
275. 逆井 良, 砂谷優実, 松井 理, 橋本光正, **岩淵邦芳**: 抗ガン剤トポイソメラーゼ阻害剤が引き起こす二次的 DNA 損傷に対する細胞応答, 金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2014年7月)
276. *13 Shui Y, Yamamoto R, **Kato N**: Involvement of homer1a in resilience to chronic mild stress, Neuroscience 2013, (San Diego, 2013年11月)
277. Yamamoto R, Sugai T, **Kato N**: Serotonergic modulation on resting membrane potential of lateral amygdala neuron, Neuroscience 2013, (San Diego, 2013年11月)
278. 清水義朗, 奥田鉄人, 川原範夫, **加藤伸郎**, **石垣靖人**, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 とアストロサイトの関連性について, 第 48 回日本脊髄障害医学会, (福岡, 2013年11月)
279. 田嶋信義, **加藤伸郎**: ヒトメラノーマ細胞に発現している BK チャネルは Na⁺/K⁺-ATPase と膜ラフトにおいて機能的複合体を形成し、細胞膜コレステロール量によってその活動が調節される, 第 8 回スフィンゴセラピー研究会, (石川, 2013年7月)
280. 吉村 弘, 須貝外喜夫, 姚陳娟, 長谷川敬展, 赤松徹也, **加藤伸郎**: ラット大脳新皮質における non-NMDA 受容体活動に依存する 20Hz オシレーション, 第 36 回日本神経科学大会, (京都, 2013年6月)
281. **加藤伸郎**, 王正大, 王麗, 山本 亮, 須貝外喜夫: 認知課題中の行動適正化における外側手綱核の役割, 第 36 回日本神経科学大会, (京都, 2013年6月)
282. 田中恵子, 李永智, 藤田充世, 松井 真, **加藤伸郎**, **石垣靖人**, 竹上勉: NMDA 受容体脳炎における炎症病態の検討, 第 54 回日本神経学会学術大会, (東京, 2013年5月)
283. 舘 慶之, 奥田鉄人, 川原範夫, **加藤伸郎**, **石垣靖人**, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 の発現解析, 第 42 回日本脊椎脊髄病学会, (宜野湾, 2013年4月)
284. Tanaka K, Fujita M, **Ishigaki Y**, **Kato N**, Matsui M, Tanaka M, Takegami T: Effects of the CSF from anti-NMDA receptor encephalitis patient on the cultured neurons, The American Academy of Neurology's 65th the ANN Annual Meeting, (San Diego, 2013年3月)
285. *12 **加藤伸郎**, 王芙蓉, 張昱, 王麗, 孫鵬, 須貝外喜夫, 山本 亮: 海馬メタ可塑性とアルツハイマー病モデルマウス認知回復との関連, 第 90 回日本生理学会大会, (東京, 2013年3月)
286. *17 吉富泰央, 池田崇之, 吉竹佳の, **八田稔久**, **加藤伸郎**, **米倉秀人**: 神経-血管相互作用を介した血管ネットワーク形成における JunB の機能, 第 49 回金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2013年7月)
287. 吉富泰央, 池田崇之, 吉竹佳の, 岡山 實, 小栗佳代子, **米倉秀人**: 転移能の異なるルイス肺がん細胞株が形成する腫瘍中に誘導される血管の構造の差異の解明, 第 86 回日本生化学会大会, (横浜, 2013年9月)
288. *19 Tsukada T, Simamura E, Shimada H, Akai T, Iizuka H, **Hatta T**: Maternal immune activation impairs the maternal-fetal leukemia inhibitory factor signal relay and reduces neural stem/progenitor cell proliferation, Neuroscience 2013, (San Diego, 2013年11月)
289. *19 塚田剛史, 島村英理子, 島田ひろき, 赤井卓也, 飯塚秀明, **八田稔久**: 大脳皮質形成に働く母胎間白血病抑制因子シグナル伝達経路は、母体免疫活性化により変動する, 日本脳神経外科学会第 72 回学術集会, (横浜, 2013年10月)
290. 黒田尚宏, 島田ひろき, 島村英理子, 東 伸明, **八田稔久**: 組織画像スライド試験システムの教育効果, 第 45 回日本医学教育学大会, (千葉, 2013年7月)
291. *18 **八田稔久**: 中枢神経系の正常発生、脳はひとりで大きくなるか？, 第 53 回日本先天異常学会学

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

- 術集会, (大阪, 2013 年 7 月)
292. 島田ひろき, 島村英理子, 塚田剛史, 八田稔久: 35 ゲージ針を用いたラット胎児脳室注入法, 第 53 回日本先天異常学会学術集会, (大阪, 2013 年 7 月)
293. *18 仲島百合子, 島村英理子, 島田ひろき, 有川智博, 東海林博樹, 増田浩子, 大谷 浩, 八田稔久: メラノコルチンによるヒト赤芽球の分化調節機構, 第 53 回日本先天異常学会学術集会, (大阪, 2013 年 7 月)
294. 金山景錫, 八田稔久, 島村英理子, 島田ひろき, 瀬上夏樹: マウス顎関節発生におけるエストロゲン関連受容体 γ の発現について, 第 53 回日本先天異常学会学術集会, (大阪, 2013 年 7 月)
295. 黒田尚宏, 島田ひろき, 八田稔久, 東 伸明, 島村英理子, 堀 有行: 組織画像スライド試験システムを利用した復習促進効果, 金沢医科大学第39回総会・第49回学術集会, (内灘, 2013 年 7 月)
296. *19 Tsukada T, Simamura E, Shimada H, Akai T, Iizuka H, Hatta T: Concentration of leukemia inhibitory factor in fetal cerebrospinal fluid is altered following maternal immune activation, 第 36 回日本神経科大会, (京都, 2013 年 6 月)
297. *18 島田ひろき, 島村英理子, 東海林博樹, 有川智博, 東 伸明, 八田稔久: Leukemia inhibitory factor は insulin-like growth factor を介して Fibroblast growth factor 2 の神経幹/前駆細胞の増殖作用を増強する, 第 36 回神経科学大会, (京都, 2013 年 6 月)
298. 金山景錫, 八田稔久, 山本奈央, 瀬上夏樹: 顎関節症に女性ホルモンは関与するか-エストロゲンレセプターの免疫組織学的検討, 第 67 回日本口腔科学会学術集会, (栃木, 2013 年 5 月)
299. 石垣靖人, 中村有香, 辰野貴則, 島田ひろき, 八田稔久, 桑畑 進, 中川秀昭, 竹上 勉, 友杉直久: 細胞内 mRNA-タンパク質構造の可視化, 日本顕微鏡学会 第 69 回学術講演会, (大阪, 2013 年 5 月)
300. *21 内芝舞実, 桶谷祐介, 池原裕介, 島村英理子, 島田ひろき, 東 伸明, 渡辺弥寿夫, 八田稔久: ラット胎児バーチャルスライドライブラリーを用いた臓器発生の形態計測学的解析と立体再構築, 第 118 回日本解剖学会総会, (高松, 2013 年 3 月)
301. 石垣靖人, 中村有香, 竹上 勉, 友杉直久, 中川秀昭, 桑畑 進: SEM による生体観察とイオン液体の活用, 医学生物学電子顕微鏡技術学会 第 29 回学術講演会, (横須賀, 2013 年 6 月)
302. *25 石垣靖人, 中村有香, 辰野貴則, 馬 少幅, 中川秀昭, 竹上 勉, 友杉直久: 中心体局在因子 RBM8A のリン酸化制御の解析, 第 65 回日本細胞生物学会大会, (名古屋, 2013 年 6 月)
303. 津田哲哉, 岸田祥子, 望月衛子, 新垣篤史, 石垣靖人, 根本典子, 桑畑 進: イオン液体を用いて前処理した生物試料の SEM 観察, 日本顕微鏡学会 第 69 回学術講演会, (大阪, 2013 年 5 月)
304. 砂谷優実, カムダール ラディカ パンカジ, シャルマ ムケシュ クマール, 松井 理, 逆井 良, 橋本光正, 松本義久, 岩淵邦芳: カスパーゼによる XRCC4 切断と XRCC4 による CAD の核内移行促進機構の解明, 日本放射線影響学会第 56 回大会, (青森, 2013 年 10 月)
305. 松井 理, 砂谷優実, 逆井 良, 橋本光正, 岩淵邦芳: 53BP1 による p53 機能の制御, 日本放射線影響学会第 56 回大会, (青森, 2013 年 10 月)
306. Yoshida J, Iwabuchi K: Calcium sensor STIM1 plays an essential role in human epidermoid carcinoma cell growth, migration, and tumorigenicity, 第 72 回日本癌学会学術総会, (横浜, 2013 年 10 月)
307. Yoshida J, Iwabuchi K: Calcium sensor STIM1 plays an essential role in human epidermoid carcinoma cell growth, migration, and tumorigenicity, 第 72 回日本癌学会学術総会, (横浜, 2013 年 10 月)
308. Yoshida J, Iwabuchi K, Ishibashi T, Masuoka T, Nishio M: Silencing of calcium sensor protein stromal interocionmolecule 1 (STIM1) suppresses cell proliferation and tumorigenicity in human epideermoid carcinoma A431 cells, 第 86 回日本薬理学会年会, (福岡, 2013 年 3 月)
309. Tanaka K, Li Y, Ishigaki Y, Takegami T, Tanaka M, Matsui M, Kato N: Effects of anti-NMDA receptor antibodies from the patients with NMDA receptor encephalitis on the neurons, 11th International Congress of Neuroimmunology, (Boston, 2012 年 12 月)
310. Tachi Y, Okuda T, Kawahara N, Kato N, Ishigaki Y, Matsumoto T: Expression of hyaluronidase-4 in a rat spinal cord hemisection model, Neuroscience 2012, (New Orleans, 2012 年 10 月)
311. Yamamoto R, Sugai T, Kato N: Serotonergic modulation on excitatory and inhibitory synaptic transmission in lateral amygdala, Neuroscience 2012, (New Orleans, 2012 年 10 月)
312. 舘 慶之, 奥田鉄人, 川原範夫, 加藤伸郎, 石垣靖人, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 の発現 -Western-blot における検討-, 第 27 回日本整形外科学会基礎学術集会, (名古屋, 2012 年 10 月)
313. 田中恵子, 石垣靖人, 加藤伸郎, 松井 真, 竹上 勉: 自己免疫性脳炎とてんかん, 第 46 回日本てんかん学会, (東京, 2012 年 10 月)
314. *13 加藤伸郎: 軽度ストレスに対するレジリエンスと Homer1a, 科学技術振興機構さきがけ研究 21 第 13 回「知と構成」領域懇話会, (神戸, 2012 年 10 月)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

315. 須貝外喜夫, 山本 亮, 吉村 弘, **加藤伸郎**: 傍梨状核、前障及び島皮質ニューロンの multimodal chemosensory responses, 第 35 回日本神経科学大会, (名古屋, 2012 年 9 月)
316. 山本 亮, 須貝外喜夫, **加藤伸郎**: 扁桃体外側核内シナプス伝達への 5-HT の作用, 第 35 回日本神経科学大会, (名古屋, 2012 年 9 月)
317. 田中恵子, **加藤伸郎**, 張清, 孫鵬, **石垣靖人**, 松井 真, 竹上勉: 抗 NMDA 受容体脳炎患者髄液による疾患モデルを用いた病態の解析, 第 24 回日本神経免疫学会学術集会, (軽井沢, 2012 年 9 月)
318. *13 Shui Y, Kang H, wang L, Luo X, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N**: Involvement of Homer1a in resilience to chronic mild stress in mice, 第 48 回金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2012 年 7 月)
319. Kang H, Wang F, Zhang Y, Luo X, Shui Y, Wang L, Yamamoto R, Sugai T, **Kato N**: Rolls of Homer1a in learning in 3xTg-Alzheimer's mice, 第 48 回金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2012 年 7 月)
320. **加藤伸郎**: 可溶性アミロイド β による電気生理学的な異常事象, 第 7 回スフィンゴテラピィ研究会, (石川, 2012 年 7 月)
321. 館慶之, 奥田鉄人, **加藤伸郎**, **石垣靖人**, 松本忠美: ラット脊髄切断モデルにおける hyaluronidase-4 の発現解析, 第 27 回日本脊髄外科学会, (千葉, 2012 年 6 月)
322. Yoshitake Y., Ikeda T., Yoshitomi Y, **Yonekura H**: Increased expression of Epac2 during in vitro tube formation in human microvascular endothelial cells, 22nd IUBMB & 37th FEBS Congress, (Sevilla, Spain, 2012 年 9 月)
323. 池田崇之, 吉富泰央, **石垣靖人**, 吉竹佳の, **米倉秀人**: 低酸素状態は mRNA 選択的 3' 端プロセッシングを介して微小血管内皮細胞の可溶性 VEGF 受容体(可溶性 Flt-1)産生を抑制する, 日本生化学会北陸支部第 30 回記念大会, (金沢, 2012 年 5 月)
324. 池田崇之, 吉富泰央, **石垣靖人**, 吉竹佳の, **米倉秀人**: 血管内皮細胞における可溶性 Flt-1(可溶性 VEGF 受容体-1)mRNA 選択的 3' 端プロセッシング機構の解析, 第 14 回日本 RNA 学会年会, (仙台, 2012 年 7 月)
325. 池田崇之, 吉富泰央, 吉竹佳の, **米倉秀人**: Flt-1(VEGF 受容体-1)mRNA 選択的 3' 端プロセッシング機構の解析, 第 85 回日本生化学会大会, (福岡, 2012 年 12 月)
326. 吉竹佳の, 池田崇之, 吉富泰央, 田中一美, 米倉秀人: 毛細血管内皮細胞のマトリゲル上での管腔形成過程では Epac2 の発現が上昇する, 第 85 回日本生化学会大会, (福岡, 2012 年 12 月)
327. *21 桶谷祐介, 池原裕介, 渡辺弥壽夫, **八田稔久**: ラット胎児に関する組織細胞連続切片画像の高速自動整合と 3 次元再構築, バイオイメージ・インフォマティクス ワークショップ 2012, (神戸, 2012 年 11 月)
328. *18 島村英理子, 島田ひろき, 有川智博, **東海林博樹**, 大谷 浩, **八田稔久**: メラノコルチンレセプター 1, 2, 5 伝達シグナルによる赤芽球の分化制御, 第 74 回日本血液学会学術集会, (京都, 2012 年 10 月)
329. *20 Arikawa T, Simamura E, Shimada H, **Hatta T**, **Shoji H**: Analysis of the galectin 4 expression during trophoblast differentiation in rat placentation, 第 18 回国際胎盤学会, (広島, 2012 年 9 月)
330. *18 島村英理子, 島田ひろき, 有川智博, **東海林博樹**, **八田稔久**: ヒト赤芽球のエリストポイエチンシグナルはメラノコルチンシステムにより調節される, 金沢医科大学医学会, (内灘, 2012 年 7 月)
331. *18 **八田稔久**, 島村英理子, 島田ひろき, **東海林博樹**, 有川智博, 東 伸明, 大谷 浩, 渡辺弥壽夫: 母-胎児間 LIF-ACTH ネットワークによる脳と血球のシナジスティックな発生調節機構, 金沢医科大学医学会, (内灘, 2012 年 7 月)
332. *18 島村英理子, 島田ひろき, 有川智博, **東海林博樹**, **八田稔久**: 母胎 LIF シグナルの胎児大脳皮質 radial glia への影響, 第 52 回日本先天異常学会, (東京, 2012 年 7 月)
333. *20 有川智博, 島村英理子, 島田ひろき, **八田稔久**, **東海林博樹**: ガレクチンによる制御を介した胎盤形成・維持機構の解析, 第 52 回日本先天異常学会, (東京, 2012 年 7 月)
334. *21 Uchishiba M, Simamura E, Higashi N, Shimada H, Mitani M, **Hatta T**: Morphometric analysis of organ development in staged rat embryos with virtual serial slide library, 第 52 回日本先天異常学会, (東京, 2012 年 7 月)
335. **石垣靖人**, 中村有香, 竹原照明, 中川秀昭, 友杉直久, 竹上 勉, 桑畑 進: イオン液体を用いたヒト培養細胞の SEM 観察, 日本顕微鏡学会第 56 回シンポジウム, (札幌, 2012 年 11 月)
336. **Ishigaki Y**, Nakamura Y, Takehara T, Kuwabata S, Nakagawa H, Tomosugi N, Takegami T: Ionic liquid enables simple and rapid sample preparation of human culturing cells for scanning electron microscope (SEM) analysis, 14th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry, (京都, 2012 年 8 月)
337. **Ishigaki Y**, Nakamura Y, Murakami M, Ozaki Mi, Hashimoto M, **Iwabuchi K**, Nakagawa H, Tomosugi N, Takegami T: RNA binding protein RBM8A(Y14) and Magoh localize to centrosome in human cells, Joint Meeting of The 45th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists & The 64th Annual Meeting of the Japanese Society for Cell Biology, (神戸, 2012 年 5 月)
338. 砂谷優実, R P Kamdar, M K Sharma, 松井 理, 橋本光正, 松本義久, **岩淵邦芳**: アポトーシスで生じた

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

<p>XRCC4N 末断片による DNA 非損傷性アポトーシスの制御機構, 日本放射線影響学会第 55 回大会, (仙台, 2012 年 9 月)</p> <p>339. 松井 理, 砂谷優実, 橋本光正, 岩淵邦芳: 53BP1 による p53 機能の制御, 日本放射線影響学会第 55 回大会, (仙台, 2012 年 9 月)</p> <p>340. 橋本光正, 松井 理, 砂谷優実, 立石 智, 岩淵邦芳: テロメア末端融合における 53BP1 と Rad18 の機能解析, 日本放射線影響学会第 55 回大会, (仙台, 2012 年 9 月)</p> <p>341. Yoshida J, Iwabuchi K: Silencing of STIM1 suppresses store operated calcium entry and cell growth of human epidermoid carcinoma A431 cells, 71th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association, (Sapporo, 2012 年 9 月)</p> <p>342. Sunatani Y, R P Kamdar, M K Sharma, Matsui T, Hashimoto M, Matsumoto Y, Iwabuchi K: Mechanism of Apoptosis Induction via Regulation of ASAP Complex by XRCC4, The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology Society of Japan, (Fukuoka, 2012 年 12 月)</p> <p>343. Matsui T, Sunatani Y, Hashimoto M, Iwabuchi K: Regulation of p21-mediated G1/S Checkpoint by 53BP1, The 35th Annual Meeting of the Molecular Biology of Japan, (Fukuoka, 2012 年 12 月)</p> <p>344. 砂谷優実, R P Kamdar, M K Sharma, 松井 理, 橋本光正, 松本義久, 岩淵邦芳: DNA 二本鎖切断修復タンパク質 XRCC4 を介したアポトーシス制御機構の解明, 第 48 回金沢医科大学医学会学術集会, (内灘, 2012 年 7 月)</p> <p>345. Doai M, Watanabe N, Takahashi T, Taniguchi M, Tonami H, Iwabuchi K, Kayano D, Fukuoka M, Kinuya S: Radiotoxicity after radioisotope therapy for using γ-H2AX foci of DNA damage in lymphocytes, European Association of Nuclear Medicine, (Milan, 2012 年 10 月)</p>
--

<研究成果の公開状況> (上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

<既に実施しているもの>

平成26年10月18日に金沢市の北國新聞ホールにおいて市民公開セミナーがおこなわれ、国立病院機構東京医療センター総合内科医長の本田美和子氏により「ユマニチュード」をテーマに特別講演がおこなわれたほか、金沢医科大学の岩井邦充教授より高齢医学からみた認知症ケアの講演、精神神経科学の川崎康弘教授により「お年寄りを地域でささえるとは？」と題して本研究事業の概要が解説された(*1、*2)。内容を紹介した新聞報道を資料2として添付した。

平成29年2月12日にホテル日航金沢において市民公開講座が開催され、一般市民や医療福祉関係者184名が参加し、認知症について知っておくべき知識についての講演がおこなわれた。神田享勉学長による開会の挨拶ののち、精神神経科学の川崎康弘教授は「認知症を知り、認知症と生きる」と題して事業の概要を述べ、これまでの活動が報告された。さらにスタッフらによる寸劇を交え、患者への対応の基本は「驚かせない」「急がせない」「自尊心を傷つけない」の3点が重要だと指摘した。続いて生理学 I の加藤伸郎教授から「アルツハイマー予防の話『運動・ドリル・食事の次はこれ！』」と題して、動物を用いた研究から見いだされた予防に役立つ諸知識が紹介され、光刺激による認知症発症予防の可能性から、ヒトを対象とした研究に着手していることが報告された。最後に高齢医学の入谷敦講師からは「予防を中心とした認知症診療」と題して、来年度に竣工する金沢医科大学病院中央診療棟にて本格的な活動を開始する金沢医科大学認知症センターが紹介された(*1、*2、*7)。内容を紹介した新聞報道を資料3として添付した。

<これから実施する予定のもの>

特になし。

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

14 その他の研究成果等

氷見市の僻地医療対象地域に居住する高齢者を対象とした現地調査の取り組みは、平成 28 年 1 月、全国キャラバンメイト連絡協議会より学生サポーターを養成するサポーター講座展開事例として、平成 27 年度の表彰を受けた。「自治体と連携し、へき地での調査および啓発活動を行い、早期発見、予防のためのシステムの構築を図っている」点において、「医療を学ぶ学生の実践的学習と地域の認知症予防が有機的に機能する画期的な事業である」との評価を受け、全国 26 件の応募の中から選ばれた（*1, *2）。

受賞の様子等は全国キャラバンメイト連絡協議会のホームページから閲覧可能である。

(<http://www.caravanmate.com/reportlist/>)

本研究により特定職員として雇用された松田幸久氏が、氷見市の僻地医療対象地域に居住する高齢者を対象とした現地調査の取り組みにより、平成 27 年の第 5 回杉浦地域医療振興助成に採択された。採択されたテーマは「認知症スクリーニング調査と地域・医療・行政の包括的クリティカルパスの構築」である。受賞の様子は杉浦記念財団のホームページから閲覧可能である (http://sugi-zaidan.jp/assist_decoration/index.html)（*1、*2）。報告書を資料 4 として添付した。

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

15 「選定時」及び「中間評価時」に付された留意事項及び対応

<「選定時」に付された留意事項>

該当なし。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

該当なし。

<「中間評価時」に付された留意事項>

外部評価体制を整え、適切な時期におこなっていただきたい。

<「中間評価時」に付された留意事項への対応>

毎年度初めに前年度の成果報告会を開催し(研究成果発表及び公開シンポジウムの項を参照)、プロジェクトメンバーではない学内研究者の意見を聞く場を設け、その意見を翌年度の研究に反映させた。しかしながら、外部評価機構の整備については不十分であった点は否めない。

本戦略プロジェクトとは別途に、平成 28 年度より研究ブランディング事業が採択されたが、これに対しては学外者 6 名を含んだ外部評価委員会が設置された。外部評価委員には石川県庁と金沢市の産学官連携担当者が含まれていたこともあり、本戦略プロジェクトにおいて実施された内灘町と本学の提携に基づく健康管理データの有効活用についても議論がなされた。その際、今後展開される研究ブランディング事業において、さらに地域貢献を進めるうえで、本戦略プロジェクトの成果が有効活用できる可能性があるとの評価を受けた。

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

年度・区分	支出額	内 訳						備考
		法人負担	私学助成	共同研究機関負担	受託研究等	寄付金	その他()	
平成24年度	施設	16,590	8,296	8,294				
	装置	49,875	24,938	24,937				
	設備	16,590	5,530	11,060				
	研究費	14,191	8,204	5,987				
平成25年度	施設							
	装置							
	設備							
	研究費	16,073	9,560	6,513				
平成26年度	施設							
	装置							
	設備							
	研究費	17,659	11,082	6,577				
平成27年度	施設							
	装置							
	設備							
	研究費	17,381	10,630	6,751				
平成28年度	施設							
	装置							
	設備							
	研究費	14,843	9,515	5,328				
総額	施設	16,590	8,296	8,294				
	装置	49,875	24,938	24,937				
	設備	16,590	5,530	11,060				
	研究費	80,147	48,991	31,156				
総計	163,202	87,755	75,447	0	0	0	0	

(様式2)

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

17 《施設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)(千円)

施設の名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
リアルタイム神経活動 電位解析室	24	100㎡	3	平均 4人/日	8,815	4,407	私学助成
疾患関連遺伝子 解析センター	24	125㎡	3	平均 3人/日	7,774	3,887	私学助成

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

0 m²

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型 番	台 数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置) 高速高感度タイムラプ スシステム	24	CSUSYS-UKM- SP09	一式	4時間/日	49,875	24,937	私学助成
(研究設備) f-MRI用音・画像刺激 提示装置	24	画像提示装置 (900001) 音刺激提示装置 (900003)	一式	4時間/月	16,590	11,060	私学助成
光トポグラフィ装置	20	ETC-4000 (日立メディコ)	一式	3.5時間/月	37,695	25,130	私学助成
(情報処理関係設備)							

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

18 研究費の支出状況

(研究テーマ1:へき地高齢化社会における心の健康医療システム構築に関する研究)

(千円)

年 度	平成 24 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	3,249	実験研究	3,249	実験用器具、データ解析用ソフト、その他
賃借料	315	賃借費	315	複写機リース
通信運搬費	0		0	
印刷製本費	168	印刷費	168	コピー代
旅費交通費	46	旅費	46	出張旅費
報酬・委託料	29	委託料	29	作業委託
被服費	8	クリーニング代	8	実験衣クリーニング
計	3,815		3,815	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	4,147	研究用機器	4,147	誘発電位検査装置、ポータブル蛍光LED顕微鏡
図 書				
計	4,147		4,147	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	1,232	給与	1,232	学内1人(初年度:H24. 12. 1採用)
研究支援推進経費				
計	1,232		1,232	

18 研究費の支出状況

(研究テーマ2:発生工学的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発)

(千円)

年 度	平成 24 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	4,312	実験研究	4,312	実験用器具、実験用試薬、その他
光熱水費	0		0	
通信運搬費	2	郵便費	2	郵便代
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	51	旅費	51	出張旅費
報酬・委託料	51	委託費	51	作業委託
修繕費	224	機器修理	224	製氷機、冷蔵庫修理他
計	4,640		4,640	
ア ル パ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	357	研究用機器	357	顕微鏡デジタルカメラ
図 書				
計	357		357	
研 究 ス タ ッ プ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費				
計	0		0	

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

18 研究費の支出状況

(研究テーマ1:へき地高齢化社会における心の健康医療システム機構に関する研究)

(千円)

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	2,315	実験研究	2,315	実験用器具、データ解析用ソフト、その他
光 熱 水 費	506	燃料費、水道料、電気料	506	燃料費、水道料、電気料
新聞雑誌費	235	書籍	235	電子書籍 雑誌
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	472	旅費	472	出張旅費
報酬・委託料	112	支払報酬	112	講師謝金、その他
(修繕費)	57	機器修理	57	パソコン修理
計	3,697		3,697	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	1,449	研究用機器	1,449	ハイオティカルレーザー、専用パーソナルコンピュータMac Pro
図 書				
計	1,449		1,449	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	3,717	給与	3,717	学内1人(初年度:H24. 12.1採用、2年目:H25.4.1継続採用)
研究支援推進経費				
計	3,717		3,717	

18 研究費の支出状況

(研究テーマ2:発生工学的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発)

(千円)

年 度	平成 25 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	4,178	実験研究	4,178	実験用器具、実験用試薬、その他
光 熱 水 費	500	燃料費、水道料、電気料	500	燃料費、水道料、電気料
通信運搬費	13	郵便代	13	郵便代
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	116	旅費	116	出張旅費
報酬・委託料	52	委託費	52	作業委託
修繕費	9	機器修理	9	ピペットマン修理
計	4,868		4,868	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	330	研究用機器	330	テーブルトップ冷却遠心機
図 書				
計	330		330	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	2,012	給与	2,012	外国1人(初年度:H25.4.1採用)
研究支援推進経費				
計	2,012		2,012	

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

18 研究費の支出状況

(研究テーマ1:へき地高齢化社会における心の健康医療システム構築に関する研究)

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	1,459	実験研究	1,459	実験用品、試薬、その他
光熱水費	539	燃料費、水道料、電気料	539	燃料費、水道料、電気料
通信運搬費	7	電話料	7	電話料
印刷製本費	610	講演会	610	講演会プログラム、ポスター
旅費交通費	216	旅費	216	学会旅費、研修会旅費
報酬・委託料	0		0	
(新聞雑誌費)	83	雑誌購入	83	雑誌代
(被服費)	111	被服購入	111	白衣、マスク、その他
計	3,025		3,025	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	2,303	研究用機器	2,303	マイクロプレートリーダー、電気刺激装置1チャンネルDC
図 書				
計	2,303		2,303	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	4,838		4,838	学内1人(初年度:H24. 12.1採用、2年目:H25.4.1継続採用、3年目:H26.4.1継続採用)
研究支援推進経費				
計	4,838		4,838	

18 研究費の支出状況

(研究テーマ2:発生工学的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発)

(千円)

年 度	平成 26 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	4,555	実験研究	4,555	実験用品、試薬、その他
光熱水費	533	燃料費、水道料、電気料	533	燃料費、水道料、電気料
通信運搬費	276	送料、電話料	276	送料、電話料
印刷製本費	0		0	
旅費交通費	166	旅費	166	出張旅費
報酬・委託料	6	委託費	6	英文校正料
計	5,536		5,536	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出				
計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品				
図 書				
計	0		0	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	1,957		1,957	外国1人(初年度:H25.4.1採用、2年目:H26.4.1継続採用)
研究支援推進経費				
計	1,957		1,957	

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

18 研究費の支出状況

(研究テーマ1:へき地高齢化社会における心の健康医療システム構築に関する研究)

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	1,616	実験研究	1,616	実験用品、試薬、その他
光 熱 水 費	317	燃料費、水道料、電気料	317	燃料費、水道料、電気料
通 信 運 搬 費	6	電話料	6	電話料
印 刷 製 本 費	511	コピー料金	511	コピー料金
旅 費 交 通 費	424	旅費	424	出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	391	委託費	391	作業委託、英文校正料
(新聞雑誌費)	39	雑誌購入	39	雑誌代
(雑費)	111	参加費	111	学会参加費
計	3,415		3,415	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	751	パート職員賃金	751	時給 1,000円 年間時間数 751時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	751		751	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	604		604	ビデオスコープデジタルメディカルスコープ DS-10 VersaCam
図 書				
計	604		604	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	4,892		4,892	学内1人(初年度:H24. 12.1採用、2年目:H25.4.1継続採用、3年目:H26.4.1継続採用、4年目:H27.4.1継続採用)
研究支援推進経費 計	4,892		4,892	

18 研究費の支出状況

(研究テーマ2:発生工学的的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発)

(千円)

年 度	平成 27 年度			
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳		
		主 な 使 途	金 額	主 な 内 容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消 耗 品 費	6,616	実験研究	6,616	実験用品、試薬、その他
光 熱 水 費	513	燃料費、水道料、電気料	513	燃料費、水道料、電気料
通 信 運 搬 費	12	電話料、宅配料	12	電話料、宅配料
旅 費 交 通 費	244	旅費	244	出張旅費
報 酬 ・ 委 託 料	5	委託費	5	論文校正料
(被服費)	13	被服購入	13	白衣
(雑費)	14	参加費	14	学会参加費
計	7,417		7,417	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出 計	0			
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品	302		302	インキュベーターHB-80
図 書				
計	302		302	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費 計	0			

法人番号	171003
プロジェクト番号	S1201022

18 研究費の支出状況

(研究テーマ1:へき地高齢化社会における心の健康医療システム構築に関する研究)

(千円)

年度	平成 28 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	2,072	実験研究	2,072	実験用品、試薬、その他
光熱水費	330	燃料費、水道料、電気料	330	燃料費、水道料、電気料
通信運搬費	12	電話料、宅配料	12	電話料、宅配料
印刷製本費	332	印刷費	332	コピー代、ポスター代
賃借料	668	会場費	668	市民公開講座会場費
報酬・委託料	638	委託費	638	作業委託、英文校正料
(支払報酬手数料)	62	講師謝金、振込手数料	62	研究会講師謝金、振込手数料
(新聞雑誌費)	87	雑誌購入	87	ハンドブック購入費
計	4,201		4,201	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)	807	パート職員賃金	807	時給 1,000円 年間時間数 807時間 実人数 1人
教育研究経費支出 計	807		807	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	324	研究用備品	324	超音波発生装置微量超音波ホモジナイザー Q55
計	324		324	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター	2,045		2,045	学内1人(初年度:H24. 12.1採用、2年目:H25.4.1継続採用、3年目:H26.4継続採用、4年目:H27.4継続採用、5年目:H28.4継続採用)
研究支援推進経費 計	2,045		2,045	

18 研究費の支出状況

(研究テーマ2:発生工学的手法による認知症・うつ病モデルマウス群の網羅的開発)

(千円)

年度	平成 28 年度			
小科目	支出額	積算内訳		
		主な用途	金額	主な内容
教 育 研 究 経 費 支 出				
消耗品費	6,210	実験研究	6,210	実験用品、試薬、その他
光熱水費	462	燃料費、水道料、電気料	462	燃料費、水道料、電気料
通信運搬費	25	電話料、宅配料	25	電話料、宅配料
旅費交通費	102	旅費	102	出張旅費
報酬・委託料	26	委託費	26	作業委託
(支払報酬手数料)	2	振込手数料	2	振込手数料
(雑費)	8	参加費	8	学会参加費
計	6,835		6,835	
ア ル バ イ ト 関 係 支 出				
人件費支出 (兼務職員)				
教育研究経費支出 計	0		0	
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)				
教育研究用機器備品 図 書	631	研究用備品	631	プリンター3Dプリンター FORMLABS FORM2 BRULE Inc社
計	631		631	
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント				
ポスト・ドクター				
研究支援推進経費 計	0		0	